



**Hewlett Packard**  
Enterprise

# Intelligent Provisioning ユーザーガイド (HPE ProLiant Gen10 サーバーおよび HPE Synergy 向け)

## 摘要

本ガイドでは、Intelligent Provisioning ソフトウェアにアクセスし、このソフトウェアを使用して、OS のインストール、ファームウェア、ソフトウェア、およびドライバーの更新、一部の診断テストの実行のような作業などを行う方法について説明します。Intelligent Provisioning は、Service Pack for ProLiant (SPP) に含まれている最適化されたサーバー サポート ソフトウェアの一部です。本ドキュメントは、ProLiant Gen10 サーバーおよび HPE Synergy Compute Module を使用した経験がある管理者を対象としています。

部品番号: 881706-193  
発行: 2018 年 6 月  
版数: 1

## ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

## 商標

Microsoft<sup>®</sup>および Windows<sup>®</sup>は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Linux<sup>®</sup>は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Red Hat<sup>®</sup>は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の商標または登録商標です。

# 目次

<b>はじめに.....</b>	<b>6</b>
Intelligent Provisioning.....	6
iLO Web インターフェイスからの Intelligent Provisioning へのアクセス .....	6
Always On Intelligent Provisioning .....	7
iLO リモートコンソールセッションを使用した Intelligent Provisioning へのアクセス.....	7
F10/リモートコンソールの機能.....	8
Intelligent Provisioning の動作.....	8
Intelligent Provisioning でのナビゲーション.....	9
<b>初期設定および登録タスクの完了.....</b>	<b>11</b>
初期構成および登録タスク.....	11
Intelligent Provisioning でインストールされるソフトウェア.....	11
初期セットアップウィザードの使用.....	11
ファーストタイムウィザード設定に入る.....	11
Intelligent Provisioning の再有効化.....	12
Intelligent Provisioning の再インストール .....	13
ISO イメージから再インストールする.....	13
RPM パッケージから再インストールする (Linux のみ).....	14
<b>サーバーの構成とオペレーティングシステムのインストール .....</b>	<b>15</b>
サーバーの構成と OS のインストール.....	15
サーバーのサポートおよび特殊文字.....	15
各 OS に対してサポートされるソースメディアのタイプおよびインストール方法.....	15
ハードウェア設定を選択する.....	15
OS を選択する.....	18
設定のレビュー.....	20
インストールパラメーターの確認.....	20
<b>メンテナンスを実行する.....</b>	<b>21</b>
ファームウェアを更新する .....	21
インストールされている Intelligent Provisioning のバージョンの判定 .....	22
Intelligent Provisioning 環境の設定.....	22
Active Health System データのダウンロード .....	23
アクティブヘルス システムログをダウンロードする.....	24
AHS ログを AHSV にアップロードする.....	24
展開設定の使用.....	25
展開設定パッケージの作成.....	25
展開設定パッケージを使用した単一サーバーの構成.....	27
展開設定パッケージレベルの操作.....	27
展開設定パッケージの個別設定.....	28
バージョン情報.....	29
オペレーティングシステム情報を入力する.....	29
Intelligent Provisioning 環境設定の入力.....	30
アレイ構成設定.....	31
ROM 設定の入力.....	31
BIOS 構成 (RBSU) ユーティリティを使用する.....	31

ハードウェア検証ツールについて.....	32
ハードウェア検証ツールを使用する.....	32
iLO 構成について.....	32
マネージャー iLO 管理設定.....	33
iLO 管理マネージャーネットワークサービスおよび仮想ネットワークサービスの設 定.....	34
iLO 管理 SNMP の設定.....	35
iLO マネージャー専用ネットワークインターフェイスの設定.....	36
iLO マネージャー共有ネットワークインターフェイスの設定.....	37
iLO アカウントサービスの構成.....	39
iLO アカウントサービスの構成.....	39
ユーザーアカウントの追加.....	40
iLO のリセット.....	40
iLO 構成ユーティリティを使用する.....	40
iLO 概要情報を表示する.....	41
iLO 自己テストの実行.....	41
iLO 管理設定の編集.....	41
ネットワークインターフェイス設定を編集する.....	42
ユーザー アカウント設定を編集する.....	46
iLO をリセットする.....	47
Intelligent ストレージを構成する.....	47
新しいアレイを作成する.....	48
アレイまたは論理ドライブを構成する.....	48
完全消去およびリセットの使用.....	49
システムを消去するおよびオプションをリセットする.....	49
完全消去の使用.....	50
RAID を構成する.....	50
HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) の使用.....	50
HPE SSA の機能.....	50
HPE SSA へのアクセス.....	51
構成.....	51
診断/SmartSSD.....	52

## USB Key Utility の使用..... 53

## トラブルシューティング..... 56

トラブルシューティングの基本的な手法.....	56
一般的な問題のトラブルシューティング.....	56
Intelligent Provisioning F10 ブート中に iLO ログオンが必要.....	56
F10 キーを押しても Intelligent Provisioning が起動しない.....	56
OS ホスト名フィールドがない.....	57
展開設定でのバージョン情報へのアクセス.....	57
ブラウザーが展開プロファイルをインポートしない.....	57
一部のレガシー BIOS モードで特定の手順が必要になる.....	57
Intelligent Provisioning 環境設定に NIC ポートが保存されない.....	58
Always On Intelligent Provisioning で NIC のステータスが表示されない.....	58
カスタムのパーティションサイズを作成できない.....	58
Windows 固有の問題のトラブルシューティング.....	58
System Management ホームページに情報が表示されない.....	58
Windows Essentials が USB ソースからインストールされない.....	59
Windows が AMD サーバーにインストールされない.....	59
Linux 固有の問題のトラブルシューティング.....	59
Red Hat Enterprise Linux 7 の自動インストールを続行できない.....	59
Red Hat OS の自動インストールがハングする.....	60

VMware 固有の問題のトラブルシューティング .....	60
VMware の自動インストール中にサーバーが再起動する .....	60
<b>Web サイト .....</b>	<b>62</b>
<b>サポートと他のリソース .....</b>	<b>63</b>
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス .....	63
アップデートへのアクセス .....	63
カスタマーセルフリペア (CSR) .....	64
リモートサポート (HPE 通報サービス) .....	64
保証情報 .....	64
規定に関する情報 .....	65
ドキュメントに関するご意見、ご指摘 .....	65

# はじめに



**ヒント:** このガイドの情報は、ProLiant Gen10 サーバーおよび HPE Synergy コンピュートモジュールで Intelligent Provisioning を使用するためのものです。ProLiant Gen8 および Gen9 サーバーで Intelligent Provisioning を使用する場合は、Information Library (<http://www.hpe.com/info/intelligentprovisioning/docs>) で入手可能な Intelligent Provisioning のユーザーガイドを参照してください。

## Intelligent Provisioning

Intelligent Provisioning は、ProLiant サーバー、および HPE Synergy コンピュートモジュールに組み込まれた単一サーバーの展開ツールです。Intelligent Provisioning によって、サーバーのセットアップがシンプルになり、信頼性が高く一貫した方法でサーバーを展開できます。

Intelligent Provisioning は、使用許諾されたベンダーのオリジナルメディアおよび Hewlett Packard Enterprise ブランドバージョンの OS ソフトウェアをシステムにインストールします。Intelligent Provisioning は、Service Pack for ProLiant (SPP) に含まれている最適化されたサーバーサポートソフトウェアを統合するためにシステムも準備します。SPP は、ProLiant サーバーとサーバーブレードおよびこれらのサーバーを収納するエンクロージャー、ならびに HPE Synergy コンピュートモジュール向けの包括的なシステムソフトウェアおよびファームウェアソリューションです。これらのコンポーネントには、ファームウェアコンポーネントと OS コンポーネントの基本的なセットがプリロードされています。これらのコンポーネントは、Intelligent Provisioning とともにインストールされます。

❗ **重要:** HPE ProLiant XL サーバーは、Intelligent Provisioning によるオペレーティングシステムのインストールはサポートしませんが、メンテナンス機能はサポートします。詳しくは、Intelligent Provisioning ユーザーガイドの「メンテナンスの実行」およびオンラインヘルプを参照してください。

サーバーの実行後、ファームウェアをアップデートすると、追加コンポーネントをインストールできます。サーバーの製造時以降のすでに古くなったコンポーネントをアップデートすることもできます。

Intelligent Provisioning にアクセスするには、次のようにします。

- ・ POST 画面から **F10** を押します。
- ・ iLO Web インターフェイスで、**Always On** を使用します。**Always On** を使用すると、サーバーを再起動せずに Intelligent Provisioning にアクセスすることができます。

## iLO Web インターフェイスからの Intelligent Provisioning へのアクセス

### 手順

1. ブラウザーを開き、<https://<iLOのホスト名またはIPアドレス>>と入力して、iLO Web インターフェイスにログインします。
2. ユーザーアカウント名とパスワードを入力し、**ログイン**をクリックします。
3. ナビゲーションツリーで **Intelligent Provisioning** をクリックします。
4. **Always On** をクリックします。  
Intelligent Provisioning Web インターフェイスが新しいブラウザウィンドウで開きます。

## Always On Intelligent Provisioning

Always On Intelligent Provisioning では、以下のことを行うことができます。

- ・ サーバーがオフのときに機能を実行します。
- ・ サーバーの電源を切断せずにオペレーティングシステムを実行しているときにタスクを実行します。

Always On Intelligent Provisioning バージョンでは、**メンテナンスを実行**には、iLO で利用できないユーティリティのみが含まれます。詳細情報については、iLO ユーザーガイドを参照してください。利用可能なユーティリティは、次のとおりです。

- ・ ファームウェアアップデート
- ・ Intelligent Provisioning 優先設定

---

**注記:** NIC は非アクティブですが、アイテムの構成は可能です。

---

- ・ 展開設定
- ・ BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU)
- ・ システムの消去およびリセット
- ・ Intelligent ストレージ構成ユーティリティ

---

**注記:** 常時稼動モードで OS をインストールするには、インストール ISO を FTP サーバー上に抽出します。

---

## iLO リモートコンソールセッションを使用した Intelligent Provisioning へのアクセス

### 手順

1. ブラウザーを開き、`https://<iLO のホスト名または IP アドレス>`と入力して、iLO Web インターフェイスにログインします。
2. iLO Web インターフェイスから**リモートコンソール&メディア**ページに移動します。
3. ご利用のシステムが、使用するリモートコンソールアプリケーションの使用要件を満たしていることを確認します。
4. 選択したアプリケーションの起動ボタンをクリックします。  
または、**情報 - iLO 概要**ページの統合リモートコンソールリンクをクリックします。
5. サーバーを再起動するかまたは電源を入れます。  
サーバーが再起動し、POST 画面が表示されます。
6. サーバーの POST の実行中にプロンプトが表示されたら、**F10** キーを押します。

Intelligent Provisioning にアクセスすると、次のいずれかになります。

- ・ Intelligent Provisioning を初めて使用する場合は、初期セットアップウィザードに従って初期構成および登録タスクを実行します。詳しくは、[初期セットアップウィザードの使用\(11 ページ\)](#)を参照してください。
- ・ すでに Intelligent Provisioning にアクセスして初期構成および登録タスクが完了している場合は、Intelligent Provisioning のホームページが表示されます。ホーム画面で、次のいずれかのオプションを選択して Intelligent Provisioning を使用します。

- **構成とインストール**

---

**注記:** 構成とインストールオプションは、ProLiant XL シリーズのサーバーモデルでは使用できません。

---

- **メンテナンスの実行**

Intelligent Provisioning を終了するには、ページ右上の電源アイコンをクリックしてサーバーを再起動してください。

## F10/リモートコンソールの機能

F10/リモートコンソールでは、以下を行うことができます。

- ・ HPE Smart Storage Administrator にアクセスして、ディスクを構成する。
- ・ Intelligent Provisioning のフル セットアップを実行する。

F10/リモートコンソールには、Always On Intelligent Provisioning よりも多くのオプションがあります。F10/リモートコンソールのオプションは、次のとおりです。

- ・ ファームウェアアップデート
- ・ Intelligent Provisioning 優先設定
- ・ アクティブヘルス システムログ
- ・ 展開設定
- ・ BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU)
- ・ iLO 構成
- ・ システムの消去およびリセット
- ・ RAID 構成
- ・ Intelligent ストレージ構成
- ・ ハードウェア検証ツール

## Intelligent Provisioning の動作

Intelligent Provisioning には、次のコンポーネントが含まれます。

- ・ クリティカルブートドライバー
- ・ Active Health System (AHS)



- ・ 消去ユーティリティ
- ・ 展開設定

---

❗ **重要:**

- ・ サーバーには、ファームウェアおよびドライバーがプリロードされていますが、初期セットアップ時にファームウェアをアップデートして、最新のバージョンに保つよう to してください。また、Intelligent Provisioning の最新バージョンをダウンロードおよびアップデートすると、サポートされる最新機能を利用できます。
- ・ ProLiant サーバーでは、ファームウェアは Intelligent Provisioning のファームウェアの更新ユーティリティを使用してアップデートされます。
- ・ 現在使用中のバージョンとの互換性が必要な場合は、ファームウェアのアップデートを実行しないでください。

---

**注記:** Intelligent Provisioning は、マルチホーム構成内では機能しません。マルチホームホストとは、複数のネットワークに接続されているか、複数の IP アドレスを持っているホストです。

---

Intelligent Provisioning は、次のオペレーティングシステムのインストールをサポートします。

- ・ Microsoft Windows Server
- ・ Red Hat Enterprise Linux
- ・ SUSE Linux Enterprise Server
- ・ VMware ESXi/vSphere カスタムイメージ



OS のすべてのバージョンがサポートされているわけではありません。サポート対象のオペレーティングシステムのバージョンについては、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトにある OS サポートマトリックス (<http://www.hpe.com/info/ossupport>) を参照してください。

## Intelligent Provisioning でのナビゲーション

このメニュー形式のインターフェイスを操作し、設定を変更するには、Intelligent Provisioning ウィンドウの左下および右下に表示されるナビゲーションアイコンを使用します。

これらの操作アイコンは画面ごとに異なり、すべての画面に表示されるわけではありません。

---

アイコン	機能
言語 	使用する言語を選択できます。
ホーム 	構成とインストールおよびメンテナンスの実行メニューがある Intelligent Provisioning のホームページに戻ります。このアイコンは、初期構成および登録作業の完了後に使用できるようになります。

---

表は続く

アイコン	機能
	<p>ジョブカート</p> <p>ジョブ構成ビューアー画面を表示します。キュー内のジョブのステータスが表示されます。この画面を使用して、構成タスクおよびジョブが処理されるときにそれらを監視できます。</p>
	<p>ヘルプ</p> <p>オンラインヘルプを開き、現在の画面に関するセクションまで移動します。</p>
	<p>システム情報</p> <p>Intelligent Provisioning のバージョンを含むシステム情報を表示します。</p>
	<p>電源オフ</p> <p>サーバーの電源を切るか、サーバーを再起動します。</p>
	<p>ログアウト</p> <p>現在のユーザーを Intelligent Provisioning からログアウトします。</p> <p><b>注記:</b> このアイコンは Always On モードでのみ表示されます。</p>
	<p>戻る</p> <p>選択を確認し、保存した後に前の画面に戻ります。</p>
	<p>続ける</p> <p>選択を確認し、保存した後に次の画面に進みます。</p>

# 初期設定および登録タスクの完了

Intelligent Provisioning を初めて使用するときは、画面に表示される指示に従って初期構成および登録タスクを実行してください。

## 初期構成および登録タスク

### 手順

初期設定および登録を実行するには、[初期セットアップウィザードの使用](#)(11 ページ)を参照してください。

## Intelligent Provisioning でインストールされるソフトウェア

インターネット接続のある状態で Intelligent Provisioning を使用して Windows システムをインストールすると、すべてのソフトウェアアプリケーションが自動的にダウンロードされ、インストールされます。その他のオペレーティングシステム、またはインターネット接続のない Windows システムでは、Intelligent Provisioning のインストール時に以下のアプリケーションは自動的にインストールされません。以下のアプリケーションをインストールするには、SPP を実行します。

- ・ ProLiant Agentless Management Service (AMS)
- ・ Network Configuration Utility for Windows
- ・ HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA)
- ・ Lights-Out Online Configuration ユーティリティ

## 初期セットアップウィザードの使用

初めて Intelligent Provisioning をサーバー上で実行するときは、初期セットアップウィザードがシステムの設定の選択を支援してくれます。

## ファーストタイムウィザード設定に入る

### 手順

1. 以下を入力するか、デフォルトを選択します。

- ・ インターフェイス言語
- ・ キーボード言語
- ・ タイムゾーン
- ・ ブート BIOS モード
- ・ システム日付
- ・ システム時間
- ・ アップデートおよびインストール用のネットワークインターフェイスを選択する

- ・ プロキシを使用
  - ・ **DHCP の自動構成** - IPv6 プロトコルの使用など、DHCP 設定を手動で入力するにはこのオプションの選択を解除します。
  - ・ EULA に同意する
  - ・ この製品の改善に役立つ匿名の使用率およびエラー フィードバックを提供する
2. 次へをクリックします。
  3. EULA を読み、**Intelligent Provisioning の EULA に同意する**を選択します。
  4. 次へをクリックします。
  5. 次の情報を入力します。
    - ・ **サーバーを自動的に最適化する**

---

注記: **サーバーを自動的に最適化する**を選択しない場合、異なる必須フィールドが表示されます。

---

    - ・ このサーバーを使用する目的は何ですか?
    - ・ **F10 機能を有効化する**  
匿名の使用率およびエラー フィードバックを提供する
    - ・ このシステムへのソフトウェアおよびファームウェア アップデートの自動適用を有効化する
  6. 次へをクリックします。
  7. 次の情報を入力します。
    - ・ **アップデートおよびインストール用のネットワークインターフェイスを選択する**
    - ・ **システム ソフトウェア アップデート** - サーバーがアップデートを取得するソース。
  8. 変更を保存するには、**送信**をクリックします。

## Intelligent Provisioning の再有効化

### 手順

1. サーバーを再起動し、プロンプトが表示されたら、**F9** キーを押して UEFI システムユーティリティにアクセスします。
2. システムユーティリティの画面で、**システム構成 > BIOS/プラットフォーム構成 (RBSU) > サーバーセキュリティ > Intelligent Provisioning (F10 プロンプト)** を選択し、**Enter** キーを押します。
3. **有効**を選択します。

# Intelligent Provisioning の再インストール

---

**注記:** HPE Web サイトの変更およびファームウェアアップデートプロセスは、1.63 (Gen8) および 2.50 (Gen9) 以下のバージョンの場合、ファームウェアアップデートでタイムアウトが発生します。hp.com に関連付けられた古い Web サイトが廃止されており、Intelligent Provisioning はアップデートを見つけれません。

古いインストールは、Intelligent Provisioning Recovery DVD で更新できます。

---

ファームウェアの更新ユーティリティを使用する代わりに Intelligent Provisioning を再インストールして、システムに最新のバージョンを搭載できます。Intelligent Provisioning の再インストールには、2 つの方法があります。

## ISO イメージから再インストールする

### 手順

1. Intelligent Provisioning Web サイト (<http://www.hpe.com/info/intelligentprovisioning>) から、**ダウンロード**をクリックすることにより、最新の Intelligent Provisioning リカバリメディア用 ISO イメージファイルをダウンロードします。
- 

**注記:** サポートされているサーバーおよび Intelligent Provisioning のバージョンは、次のとおりです。

- ・ Gen8 は Intelligent Provisioning 1.x をサポートしています。
  - ・ Gen9 は Intelligent Provisioning 2.x をサポートしています。
  - ・ Gen10 は Intelligent Provisioning 3.x をサポートしています。
- 

2. ISO イメージファイルをダウンロードするには、画面に表示される指示を完了します。

3. 次の方法で、ISO ファイルを使用してサーバーを起動します。

- ・ iLO 仮想メディアを使用する。
  - ・ ISO ファイルを DVD に書き込み、サーバーを DVD から起動する。
- 

**△ 注意:** Intelligent Provisioning リカバリメディアを次のいずれかの方法で必ずマウントしてください。

- iLO 仮想メディア。
  - Intelligent Provisioning リカバリメディアの ISO ファイルを DVD に書き込んで、サーバーの CD/DVD ドライブに挿入する。
- 

4. ON を押し、サーバーの電源を入れます。

5. ブートメニューを表示するには、サーバーの POST 中に **F11** キーを押します。

6. キーボードで **1** を押し、CD/DVD から起動します。

7. Intelligent Provisioning を更新または再インストールするには、対話型の法を選択します。サーバーは、Intelligent Provisioning リカバリメディアからの起動を続行します。

8. ウィンドウが開いたら、Intelligent Provisioning を再インストールを選択します。
9. インストールが完了したら、F10 キーを押してサーバーを再起動します。

## RPM パッケージから再インストールする (Linux のみ)

### 手順

1. SDR Web サイト (<https://downloads.linux.hpe.com/SDR/repo/ip/>) から最新の Intelligent Provisioning リカバリ RPM パッケージ用 RPM パッケージファイルをダウンロードします。

2. 次のコマンドを実行します。

```
rpm -i firmware-intelligentprovisioning-<version>.x86_64.rpm
```

3. 次のコマンドを実行します。

```
cd /usr/lib/x86_64-linux-gnu/firmware-intelligentprovisioning-ip-<version>/
```

4. 次のコマンドを実行します。

```
#!/setup
```

5. 次のコマンドを実行します。

```
#reboot
```

### 例

次に、手順 2~4 の代替手順を示します。

1. 次のコマンドを実行します。

```
export FIRMWARE_FLASH_NOW=1
```

2. 次のコマンドを実行します。

```
rpm -i firmware-intelligentprovisioning-ip-<version>.x86_64.rpm
```

# サーバーの構成とオペレーティングシステムのインストール

手順に従って、ハードウェアを構成し、サーバーに OS をインストールします。

## サーバーの構成と OS のインストール

構成とインストールメニューの画面に表示される指示に従って、次のタスクを完了します。

手順

1. [ハードウェア設定を選択する](#)(15 ページ)
2. [OS を選択する](#)(18 ページ)
3. [設定のレビュー](#)(20 ページ)

## サーバーのサポートおよび特殊文字

- ・ ProLiant XL サーバーは、Intelligent Provisioning によるオペレーティングシステムのインストールをサポートしていません。これらのサーバーは、オペレーティングシステムのインストールの展開機能を除いて、[メンテナンスを実行する](#)(21 ページ)で説明されているメンテナンス機能をサポートしていません。
- ・ 特殊文字は、パスワードのみで使用できます。他のデータフィールドでは、特殊文字を使用しないでください。パス名では特殊文字、句読点、およびスペースはサポートされていません。

## 各 OS に対してサポートされるソースメディアのタイプおよびインストール方法

各構成とインストール画面では、画面の指示に従いながら、サーバーを構成したり、OS をインストールしたり、システムソフトウェアを更新したりすることができます。

- ❗ **重要:** Intelligent Provisioning は、オリジナルの使用許諾されたベンダーメディアまたは HPE ブランドのバージョンのみをサポートします。OS のデモ版やデベロッパー版、カスタムソフトウェアまたはサービスパックを組み込むように変更されているメディアはサポートされておらず、インストールプロセスによって正しく識別されない可能性があります。

各 OS でサポートされるソースメディアとインストール方法について詳しくは、Intelligent Provisioning リリースノートを参照してください。

## ハードウェア設定を選択する

手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で**高速 OS インストール**を選択します。  
オペレーティングシステムのインストール画面が表示されます。
2. **RAID 構成オプション**を選択します。

- ・ **推奨される設定** - HPE SSA は、存在するすべてのドライブに対してポーリングを行い、それらのドライブに適したアレイを構築します。ヒューレット・パカード エンタープライズは、最初にサーバーをプロビジョニングするとき、このオプションを選択することを推奨します。

**△ 注意:** このオプションを選択すると、すべてのディスクがリセットされ、アレイが存在する場合はアレイもリセットされます。初期セットアップ中は、アレイまたはディスク データも存在しないため、サーバーには影響しません。しかし、サーバーを再プロビジョニングするときこのオプションを選択すると、データおよびディスクアレイが消失する場合があります。HPE SSA に関する詳細情報については、HPE Smart Storage Administrator ユーザーガイドを参照してください。

- ・ **現在の設定の維持する** - 既存の設定を使用して、以前に構築済みのアレイのメンテナンスを行います。サーバーを再プロビジョニングする場合は、このオプションを使用します。このオプションは、有効な論理ドライブがサーバーに存在する場合のみ表示されます。新しいサーバーのインストールの場合、このオプションは表示されません。

---

**注記:** Intelligent Provisioning は、SAN ボリュームをサポートしません。

---

**△ 注意:** レガシー BIOS モードでは、OS インストール中に 2.2 TB 以上のドライブは検出されません。

- ・ レガシー BIOS モードを使用する場合は、HPE SSA を使用して、2.2 TB 未満で起動する論理ドライブを作成してください。HPE SSA にアクセスするには、Intelligent Provisioning のメンテナンスの実行ホーム画面から **RAID 構成** を選択します。
- ・ OS インストール用に容量が 2.2 TB 以上の論理ドライブを使用する場合は、代わりに UEFI モードを使用します。詳細情報については、UEFI システムユーティリティ ユーザーガイドを参照してください。

3. **コントローラー**をリストから選択します。コントローラーの選択は、ご使用のオペレーティング環境に基づきます。
4. **ディスク**をリストから選択します。ディスクの選択は、ご使用のオペレーティング環境に基づきます。
5. **インストールソース**をリストから選択します。オプションおよびそれぞれに必要な情報と操作は次の表で説明します。

---

**注記:** Always On Intelligent Provisioning は、ネットワーク インストール ソースの使用のみに限定されます。

---



メディアタイプ	必要な情報/操作
DVD-ROM メディア	DVD を挿入します。
USB	<p>USB ドライブを挿入して、USB ドライブ上の OS インストールファイルの場所に移動します。次に、ISO ファイルをダブルクリックします。</p> <p><b>注記:</b> FAT または exFAT フォーマット済み USB ドライブのみがサポートされています。NTFS フォーマットでないと OS イメージファイルを USB にコピーできません。別のソース メディアを使用してください。</p>
SMB/CIFS (Windows 共有)	<p>以下のネットワーク接続情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>サーバー名または IP アドレス</b> - OS のコンテンツをホストするサーバーのサーバー名または IP アドレスです。サーバー名を指定する場合、DNS 情報の入力も必須です。</li> <li>・ <b>共有名</b> - OS のコンテンツをホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前です。</li> <li>・ <b>ネットワーク共有ユーザー</b> - ネットワーク共有にアクセスするために使用するユーザー名です。</li> <li>・ <b>ネットワーク共有パスワード (暗号化なし)</b> - ネットワーク共有にアクセスするために使用するユーザー名のパスワードです。</li> </ul>
匿名 FTP サーバー	<p>以下のネットワーク接続情報を入力します。</p> <p><b>サーバー名または IP アドレス</b> - OS のコンテンツをホストするサーバーの FTP サーバー名または IP アドレスです。FTP をサポートするには、FTP サーバーへの匿名アクセスが必要です。プロキシ経由の FTP サーバーへの接続は未サポートです。</p> <p>❗ <b>重要:</b> FTP パスを入力する場合は、スペースおよび句読点を削除してください。FTP サーバー ディレクトリ構造は、スペースまたは特殊文字 (句読点を含む) を使用できません。</p>
<p>6. ファームウェアアップデートを実行するかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>更新のスキップする</b> - デフォルトです。OS インストール前にファームウェアアップデートは実行されません。</li> <li>・ <b>OS インストール前に更新する</b> - 最新の SPP で定義されるベースラインに従って利用可能なファームウェアアップデートは、OS インストール前に実行されます。</li> </ul> <p>7. インストール方法を選択します。</p> <p><b>注記:</b> 常時稼動 (iLO Web ページからアクセスする Intelligent Provisioning) を使用している場合は、自動インストール オプションのみが表示されます。</p>	

- ・ **自動インストール** - 高速インストール プロセスでは、ヒューレット・パッカード エンタープライズが定義したデフォルトを使用して、サーバーソフトウェアとファームウェアの構成、ストレージのパーティション作成、および OS とドライバーのインストールを行います。また、ネットワークがご使用の場所で利用可能な場合は、ソフトウェアおよびファームウェアアップデートを実行します。ヒューレット・パッカード エンタープライズは、初回のサーバーのセットアップには、このオプションを選択することを推奨します。

---

**注記:** ProLiant iLO 5 チャネル インターフェイス ドライバーは、Windows インストールに Intelligent Provisioning 自動インストール方式を使用した場合は自動的にインストールされます。ProLiant iLO 5 チャネル インターフェイス ドライバーは、SUSE Linux Enterprise Server、Red Hat Enterprise Linux、および ClearOS 向けの標準です。

---

- ・ **手動** - Web 検索をせずにカスタム OS CD/DVD から OS をインストールします。このオプションを選択したら、サーバーが OS CD/DVD から再起動できるように、提供された CD/DVD を挿入します。Intelligent Provisioning は、OS の推奨に基づいてストレージをパーティショニングします。

---

**注記:** レガシー BIOS ブート順序は、**F10** を押しても変更できません。レガシー BIOS モードで自動インストールまたは手動インストールを実行する場合は、以下のことを確実に行う必要があります。

- Windows では、システムはハードドライブ (SMB または CIFS) から起動します。
- Linux/VMware では、システムはハードディスクドライブから起動します。

ブート順序を変更する、または、ブート時に **F11** キーを押して、これを行います。

---

## 8. **OS を選択する**に進むには、**続行**右矢印をクリックします。

- ❗ **重要:** サポートされていないメディアデバイスが選択されている場合は、次の画面に進めません。この問題を解決するには、サポートされていないメディアデバイスを取り外し、プロンプトが表示されたときにサポートされているインストールソースであることを確認してください。
- 

# OS を選択する

常時稼動モードでは、FTP、SMB、または、CIFS ソースからの OS のインストールがサポートされています。

## 前提条件

常時稼動モードで OS を FTP サーバーからインストールするには、インストール ISO を抽出します。抽出されていない ISO は、FTP ソースからインストールするには大きすぎます。

## 手順

1. オペレーティングシステムを選択するか、デフォルトを選択します。OS 言語、OS キーボード、およびタイムゾーンは、自動的にフィルター処理されます。

サポートされる OS ファミリは次のとおりです。

- ・ Microsoft Windows

---

**注記:** Microsoft Windows Essentials は、USB またはネットワークソースではなく、ISO からのみサポートされます。

---

- ・ VMware vSphere カスタム イメージ
- ・ SUSE Linux Enterprise Server
- ・ RedHat Enterprise Linux
- ・ ClearOS

---

**注記:** ProLiant サーバーによっては、VMware ESXi のインストールを完了するために HPE カスタムイメージが必要な場合があります。詳細情報またはイメージのダウンロードについてはヒューレット・パッカート エンタープライズの Web サイト (<http://www.hpe.com/info/esxidownload>) を参照してください。

---

2. 情報を次のフィールドに入力します(手動インストールで自動的に選択されます)。

- ・ 組織名
- ・ 使用者名
- ・ パスワード (オプション)
- ・ パスワードの確認

---

**注記:** パスワードを設定する場合は、オペレーティングシステムのユーザー ドキュメントのオペレーティングシステムで、パスワードの要件を確認します。要件は次の通りです。

- ・ 最小パスワード長
- ・ 最大パスワード長
- ・ 大文字
- ・ 小文字
- ・ いずれかの句読点 (!@#\$%^&\*\_.)

パスワードを指定しない場合、Windows によって初期ブート時にパスワードが要求されます。Linux では、デフォルトパスワードである **password** を使用します。

---

a. 手動インストールの場合は、プロダクトキーを入力した後、オペレーティングシステムを再度選択します。

3. システムでの HYPER-V の役割を入力します。
4. Windows ファイアウォールを有効化にします。
5. **設定をレビュー**に進むには、**続行**の右矢印をクリックします。

# 設定のレビュー

- △ **注意:** 次の画面に進めると、ドライブが新しくインストールされた状態にリセットされ、選択した OS がインストールされます。サーバー上の既存の情報は消去されます。初回のセットアップでは、サーバーにデータがないため、影響がありません。

## 手順

1. 展開設定を確認して、確定します。
2. 続行の右矢印をクリックして、インストールおよび構成の自動プロセスを開始します。展開設定に合わせて、さまざまな画面が表示され、インストールに関する進捗情報を提供します。

## インストールパラメーターの確認

インストール中および構成中は、次の点に注意してください。

- ・ Windows インストールの場合、EULA が表示されることがあります。
- ・ 次の 2 つのシステム設定によっては、このとき**ファームウェアの更新**画面が表示される場合があります。
  - **環境設定**画面で、**システムソフトウェアアップデート**が有効になっている必要があります。詳しくは、**環境設定**参照してください。
  - **オペレーティングシステムのインストール**画面で、**OS をインストールする前に更新する**が選択されていなければなりません。詳しくは、**ハードウェア設定を選択**を参照してください。

**ファームウェアの更新**画面が表示されている場合は、画面に表示される指示に従って最新のファームウェアを入手し、サーバーコンポーネントにインストールします。更新が完了すると、OS インストール中ページが表示され、OS のインストールをいつでも開始できる状態になります。

- ・ ドライブが取り付けられていないサーバーに OS の展開を試みると、サーバーが再起動し、POST 後に設定が適用中であることを示すページが表示されます。展開は続行されず、メッセージが IML に書き込まれます。
- ・ Windows インストールの場合、ドライバーのインストール中に、テストされていない Windows バージョンに関するメッセージや hpkeyclick のメッセージが表示されることがあります。これは、予期された動作です。処置は不要です。

# メンテナンスを実行する

メンテナンスを実行ウィンドウには、メンテナンスに関する次のタスクが含まれています。

- ・ Intelligent Provisioning およびコンポーネント ファームウェアを更新する
- ・ Intelligent Provisioning 優先設定を行う
- ・ アクティブ ヘルス システム データをダウンロードする
- ・ 展開設定を使用する
- ・ BIOS 構成 (RBSU) ユーティリティを使用する
- ・ iLO 構成ユーティリティを使用する
- ・ 完全消去およびリセットを使用する
- ・ HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) を使用する
- ・ ハードウェア検証ツールについて
- ・ Intelligent ストレージを構成する

---

注記: 次のメンテナンス タスクは、HPE Synergy Compute Module では、未サポートです。

- ・ アクティブ ヘルス システム データをダウンロードする
- ・ ファームウェアを更新する
- ・ iLO 構成ユーティリティを使用する
- ・ 消去ユーティリティを使用する

これらのタスクを HPE Synergy Compute Module で実行するには、HPE OneView を使用する必要があります。

---

## ファームウェアを更新する

HPE サーバーおよびインストール済みのハードウェアオプションは、最新のファームウェアで事前にロードされています。しかし、アップデートされたファームウェアが利用可能である可能性があります。ProLiant サーバーでは、ファームウェアアップデート ユーティリティを使用して、最新のファームウェアを見つけて適用します。HPE Synergy Compute Module では、HPE OneView を使用して、ファームウェアを更新します。Intelligent Provisioning のアップデートは、SPP のアップデートが提供されていれば実行できます。

---

注記: ファームウェアアップデート ユーティリティは、最新の SPP で定義されているベースラインに従って利用可能な最新情報を反映します。SPP のベースラインにない新しいアップデートは、アップデート リストに表示されません。

---

コンポーネントの古いバージョンが、サーバー上で利用可能である場合、サーバーでは、ファームウェアアップデート ユーティリティを使用して、以前のコンポーネント ファームウェアバージョンを展開できます。

## 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスを実行**をクリックします。

2. メンテナンス オプションで**ファームウェアアップデート**を選択します。

システムは、システムソフトウェア アップデート設定で構成されているソースでファームウェアを検索します。これには数分かかる場合があるので、結果が表示されるまで待ってください。

---

**注記:** また、SPP ISO をダウンロードし、DVD または USB キーにコピーすることができます。SPP をダウンロードするには、Web サイト (<http://www.hpe.com/servers/spp/download>) を参照してください。ISO の使用に関する説明については、Web サイト ([http://www.hpe.com/support/SPP\\_UG\\_en](http://www.hpe.com/support/SPP_UG_en)) にある Service Pack for ProLiant クイックスタートガイドを参照してください。

---

3. 次のいずれかを選択します。

- ・ **最新のファームウェアが利用可能**

更新は、アップデートを元に戻す必要がある場合に使用できるバージョンを作成します。

- ・ **以前のバージョンにロールバックする**

**注記:** この機能により、以前のファームウェアバージョンに戻ることができます。特定のファームウェアバージョンへのロールバックを指定できず。

---

4. これには数分かかる場合があるので、結果が表示されるまで待ってください。

**注記:** 入手できる新しいファームウェアがない場合は、ファームウェアの更新画面に現在のバージョンが表示されます。

---

5. 更新するアイテムを選択し、**送信**をクリックします。

6. **ジョブ構成ビューアー**画面には、選択したアイテムが表示されます。


7. 次のいずれかを実行します。

- ・ **今すぐ起動する**

- ・ **別のジョブを追加する**

8. ファームウェアアップデート プロセスの完了時に**再起動**をクリックします。

## インストールされている Intelligent Provisioning のバージョンの判定

Intelligent Provisioning のバージョンを確認するには、**システム情報**  をクリックします。Intelligent Provisioning Image バージョンが表示されます。

## Intelligent Provisioning 環境の設定

インターフェイスおよびキーボード言語、ネットワークおよび共有設定、システム日付および時間、ソフトウェアのアップデート設定など、基本的な環境設定を変更するには Intelligent Provisioning 環境設定を使用します。さらに、EULA はこの画面からアクセスできます。

## 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションから **Intelligent Provisioning 環境設定**を選択します。
3. **インターフェイス言語**を選択します。
4. **現在の日付時刻 (UTC)** を選択して日付時刻を変更します。
5. **ネットワーク設定**で、次のいずれかを選択します。
  - ・ ネットワークポートアダプター
  - ・ DHCP 自動構成、IPv4 静的、または IPv6 静的
  - ・ プロキシアドレスおよびポート (該当する場合)
6. **iLO ネットワーク設定**で、次のいずれかを選択します。
  - ・ DHCP の自動構成
  - ・ IPv4 静的
  - ・ 消灯
7. **システムソフトウェアアップデート**で、更新するシステムの更新ソースを選択します。
8. **タイムゾーン**で、タイムゾーンを設定します。
9. **システムブートモード**で、UEFI ブートモードまたはレガシーブートモードを選択します。
10. **キーボード言語**で言語を選択します。

サーバーで Intelligent Provisioning を初めて実行すると、この画面が Intelligent Provisioning に最初に表示されます。この画面のフィールドについては、**手順 1 の「Intelligent Provisioning 環境の設定」**を参照してください。

## Active Health System データのダウンロード

HPE サポートは、Active Health System (AHS) ログファイルを問題解決のために使用します。

**Active Health System ログ画面**を使用して、AHS ログファイルケース番号の形式で、または .ahs 拡張子付きデフォルト文字列の形式で AHS テレメトリデータをサーバーから USB キーにダウンロードします。この画面を使って、データ抽出が必要な期間と、送信先メディアとして使用する USB キーを選択します。特定の開始/終了日を選択して、データ抽出の期間を限定できます。

iLO を通して接続している場合、仮想デバイスから共有されたローカル接続の USB キーは、AHS ログ情報を保存するために使用できます。

ケースを送信するための高度な手順は次のとおりです。

## 手順

1. サポートの問題が発生しているサーバーから AHS ログをダウンロードします。**Active Health System ログのダウンロード**を参照してください。
2. Active Health System ビューア (<http://www.hpe.com/servers/AHSV>) に AHS ログをアップロードします。**AHSV への AHS ログのアップロード**を参照してください。

3. 自己修復アクションの推奨については、障害検出解析を確認します。詳しくは、AHSV ユーザーガイドを参照してください。
4. AHSV ナビゲーションメニューを使用して、サポートケースを作成します。詳しくは、AHSV ユーザーガイドを参照してください。

## アクティブヘルス システムログをダウンロードする

### 手順

1. USB キーをサーバーに挿入します。
2. Intelligent Provisioning に直接移動するには、起動中に **F10** キーを押して、
3. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスを実行**をクリックします。
4. メンテナンス オプションから、**アクティブヘルス システムログ**を選択します。  
アクティブヘルス システムログ画面が表示されます。
5. **ログの保存先リムーバブルデバイスリスト**から USB キーを選択します。
6. **開始**および**終了**日付を選択して、データを取得する期間を定義します。ヒューレット・パカード エンタープライズは、7 日間のデータを取得することをおすすめします。10 ~ 15 MB のファイルが作成されます。
7. **HPE サポート ケース番号**が関連付けられている場合は、入力します。**連絡先担当者の氏名**および**メールアドレス**を入力することもできます。連絡先の情報は、HPE サポートが問題に関する支援を提供する際に役立ちます。
8. **ログをダウンロード**をクリックして、データを USB キーに保存します。

---

**注記:** ダウンロードが完了して、メディア ランプがクリアされるまでは、USB キーを取り外さないでください。

---

データがダウンロードされたら、アクティブヘルス システム ビューアー (<http://www.hpe.com/servers/AHSV>) にアップロードします。

## AHS ログを AHSV にアップロードする

最大ファイルサイズ制限は 250 MB です。250 MB よりも大きいログについては、HPE サポート センターまでお問い合わせください。

このタスクを AHSV で実行します。

### 前提条件

- ❗ **重要:** AHS ログを作成したサーバーには、有効な保証が必要です。サーバーが保証対象外場合、次のエラーメッセージが表示されます。サーバーには資格がありません。次のオプションを確認して、ライセンスを更新してください。オプションは次のとおりです。


- ・ ライセンスをさらに購入する
- ・ ライセンス購入のための認定パートナーを探す
- ・ HPE サポートにお問い合わせる。



## 手順

1. **AHS ログをアップロード**を選択します。
2. ログファイルに移動して、**開く**をクリックします。

解析とログロード動作状態を示すウィンドウが表示されます。AHS ログをロードしているとき、画面に予想される完了時間が表示されます。

 **ヒント:** また、このウィンドウには、さまざまなプラットフォームのビデオが表示されます。ログファイルがロードされるのを待っている間に、さまざまなビデオを検索して再生できます。

ロードプロセスをキャンセルするには、**キャンセル**をクリックします。

## 展開設定の使用

Intelligent Provisioning の**展開設定**ページでは、サーバー構成パッケージを作成することができます。USB キーまたは iLO スクリプトを使用してパッケージを 1 つまたは複数の ProLiant サーバーまたは HPE Synerg 演算モジュールに展開できます。**展開設定**は、Scripting Toolkit または iLO RESTful インターフェイスツールの代わりに使用できます。

iLO RESTful インターフェイスツールについて詳しくは、<http://www.hpe.com/info/resttool> を参照してください。

**注記:** 一部のブラウザでは、展開プロファイルが正しくインポートされません。拡張子 `.txt` を使用してブラウザの互換性を確認してください。

## 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで**展開設定**を選択します。

展開設定を開くと、既存の展開設定プロファイルを管理するか、既存の展開設定に基づいて新しい展開設定プロファイルを作成するかを選択できます。

## 展開設定パッケージの作成

### 手順

1. 展開設定画面で、次のいずれかを行います。
  - a. 新しい展開設定プロファイルをインポートするには、**インポート**をクリックして、次のいずれかのオプションを使用します。
    - ・ **ネットワーク共有**からで、次の情報を入力します。

- **サーバー名/IP アドレス** - OS のコンテンツをホストするサーバーのサーバー名または IP アドレス。サーバー名を指定する場合、DNS 情報の入力も必須です。
  - **共有名** - OS のコンテンツをホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前。
  - **ドメイン名** - ネットワーク共有をホストするドメインの名前。
  - **ネットワーク共有ユーザー** - ネットワーク共有にアクセスするために使用するユーザー名。
  - **ネットワーク共有パスワード (暗号化なし)** - ネットワーク共有にアクセスするユーザーのパスワード。
- ・ **USB ドライブから** - 展開を含む USB キーを挿入します。
    - I. USB キーにある展開をローカルサーバーに保存します。
    - II. 展開を選択します画面で、リストから展開を選択して**展開**をクリックします。USB キーと USB キーに保存されている展開が表示されない場合は、**再スキャン**をクリックします。ファイルパスを指定し、ステップ 8 に進みます。
- b. または、新しいカスタムプロファイルを作成するには、**新しい展開の作成**をクリックし、展開設定画面全体を移動して、以下のステップの設定を完了します。
2. **展開名**を入力する - この展開パッケージの名前を入力します。スペースを含めないでください。
  3. **バージョン情報**を入力する - **ユーザーノート**および**キャプチャー元**の詳細を入力して、**完了**をクリックします。**バージョン情報の入力**を参照してください。
  4. **オペレーティングシステム**を入力する - 以下のいずれかの操作を行います。
    - ・ OS 詳細を表示されたままにするには、**完了**をクリックします。
    - ・ オペレーティングシステムを追加するには、**編集**をクリックします。オペレーティングシステムのインストール画面で、**ソースのインストール**を選択し、表示される画面で必須フィールドをすべて入力して、**完了**をクリックします。**オペレーティングシステム情報の入力**を参照してください。
  5. **ROM 設定**を入力する - 以下のいずれかの操作を行います。
    - ・ ROM 構成を表示されたままにするには、**完了**をクリックします。
    - ・ ROM 設定を編集するには、**編集**をクリックします。RBSU プロファイル編集画面で、編集を完了し、**完了**をクリックします。**ROM 設定の入力**を参照してください。
  6. **アレイ構成**を入力する - 新しい設定を確認または選択します。アレイ構成設定の入力を参照してください。
  7. **Intelligent Provisioning 環境設定**を入力する - **インテリジェントプロビジョニングの優先項目の設定**を参照してください。
  8. **保存** をクリックします。プロンプトが表示されたら、名前を入力し、展開設定を保存するネットワーク共有または USB キーに移動します。

## 展開設定パッケージを使用した単一サーバーの構成

---

### ❗ 重要:

- ・ 展開を使用して OS をインストールする前に、ドライブとアレイが構成されていることを確認してください。
  - ・ 構成プロセスを中断しないでください。
- 

### 手順

1. 以下のいずれかを実行します。

a. サーバー上で作成した展開を使用するには、**展開**をクリックします。

b. 前に作成した展開を使用するには、以下の操作を行います。

**展開設定 > インポート**を選択します。

- ・ **ネットワーク共有**からで、次の情報を入力します。
  - **サーバー名/IP アドレス** - OS のコンテンツをホストするサーバーのサーバー名または IP アドレス。サーバー名を指定する場合、DNS 情報の入力も必須です。
  - **共有名** - OS のコンテンツをホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前。
  - **ドメイン名** - ネットワーク共有をホストするドメインの名前。
  - **ネットワーク共有ユーザー** - ネットワーク共有にアクセスするために使用するユーザー名。
  - **ネットワーク共有パスワード (暗号化なし)** - ネットワーク共有にアクセスするユーザーのパスワード。
- ・ **USB ドライブ**から - 展開を含む USB キーを挿入します。
  - I. USB キーにある展開をローカルサーバーに保存します。
  - II. 展開を選択します画面で、リストから展開を選択して**展開**をクリックします。USB キーと USB キーに保存されている展開が表示されない場合は、**再スキャン**をクリックします。

2. 展開が実行されると、確認画面で以下の要素に設定が適用されます。

- ・ ROM 設定
- ・ アレイ設定
- ・ システムオプション
- ・ ファームウェアのアップデート

## 展開設定パッケージレベルの操作





パッケージレベルの操作は、展開内部の個々の設定ではなく、展開設定パッケージを対象にした処理を行います。

最初のページで選択を行うと、展開を選択します画面が開きます。

展開を選択します画面では、左ペインにサーバーに保存されている既存の展開設定パッケージ、右ペインに取り付けられている USB ドライブに保存されている既存の展開設定パッケージがそれぞれ表示され、画面の中央にパッケージレベルの操作アイコンが表示されます。USB ドライブが取り付けられている場合は、その名前が画面上部の**ターゲット USB キー**フィールドに表示されます。

- ・ 展開設定パッケージに対してパッケージレベルの操作を行うには、表示されているパッケージのいずれかを選択して、中央ペインの操作アイコンを選択します。
- ・ 特定の展開設定パッケージを開いて個々の設定を変更するには、表示されているパッケージのいずれかをダブルクリックします。

次の表に、選択できる操作を示します。

アイコン	説明
	展開アイコンをクリックして、自動設定ユーティリティを起動します。
	編集アイコンをクリックして、次のオプションを変更します。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ バージョン情報</li><li>・ オペレーティングシステムパラメーター</li><li>・ Intelligent Provisioning 環境設定</li><li>・ アレイ構成情報</li><li>・ ROM 設定</li></ul>
	削除アイコンをクリックして、選択した展開を削除します。
	ダウンロードをクリックして、パフォーマンスパッケージをネットワーク共有または USB ドライブにダウンロードします。

## 展開設定パッケージの個別設定

表示されている展開設定パッケージをダブルクリックすると、**展開設定**ページが再表示されます。このページでは、ページの左側に設定カテゴリが示され、修正する展開設定パッケージがページの上部に表示されます。異なる展開設定パッケージに切り替えるには、ドロップダウンメニューを展開します。

次のいずれかの展開オプションを選択します。

- ・ 新しい展開を作成します。次のトピックを参照してください。
  - [バージョン情報](#)
  - [オペレーティングシステム情報を入力する](#)
  - [Intelligent Provisioning 優先設定を入力する](#)
  - [アレイ構成設定](#)
  - [ROM 設定を入力する](#)
- ・ Always On Intelligent Provisioning 経由でインポートする、2つのオプションがあります。

- **ファイルを選択**を選択、インポート ファイルにアクセスします。
- インポート ファイルをブラウザーにドラッグアンドドロップします。

## バージョン情報

バージョン情報画面を使用して、展開に割り当てたい任意のタイプのユーザー定義識別情報を入力します。

## オペレーティングシステム情報を入力する

オペレーティングシステム画面を使用して、OS 情報とインストール設定を入力します。含まれるフィールドは自動インストール方法と一致します。

すべての OS で、すべてのソース メディアタイプがサポートされているわけではありません。

❗ **重要:** 適用するオペレーティングシステム設定が iLO に送られ、システムが再起動します。以前に展開したディスク ドライブは消去される可能性があります。

## 手順

1. OS ファミリを選択します。
2. OS メディア パスを入力します。ローカル ネットワーク上の Windows 共有または FTP サイトを指定できます。FTP サイトからの Windows のインストールは未サポートです。
  - a. Windows 共有の場所について、次のネットワーク接続設定を入力します。
    - ・ **サーバー名または IP アドレス** - OS のコンテンツをホストするサーバーのサーバー名または IP アドレスです。サーバー名を指定する場合、DNS 情報の入力も必須です。
    - ・ **共有名** - OS のコンテンツをホストする Server Message Block (SMB) プロトコルを使用しているネットワーク共有の名前です。
    - ・ **ネットワーク共有ユーザー** - ネットワーク共有にアクセスするために使用するユーザー名です。
    - ・ **ネットワーク共有パスワード** - ネットワーク共有にアクセスするために使用するユーザー名のパスワードです。
  - b. FTP サイトの場合、次を入力します。
    - ・ **サーバー名または IP アドレス** - OS のコンテンツをホストするサーバーの FTP サーバー名または IP アドレスです。FTP をサポートするには、FTP サーバーへの匿名アクセスが必要です。プロキシ経由の FTP サーバーへの接続は未サポートです。

---

❗ **重要:**

- FTP パスを入力する場合は、スペースおよび句読点を含めないでください。FTP サーバー ディレクトリ構造は、スペースまたは特殊文字 (句読点を含む) を使用できません。
  - Windows、SLES FTP インストール、および RHEL ネットワーク共有インストールはサポートされていません。
- 

c. ClearOS の場合、**ClearOS をインターネットからインストールする**をクリックします。

システムは、ISO を指定された場所から自動的にプルして、インストールします。

3. **展開設定**パッケージ用のネットワーク名およびパスワードを入力して、ネットワーク共有にアクセスします。  
このパスワードは暗号化されません。アクセス方式の安全性を高めるには、FTP を使用してください。
4. OS およびキーボードの言語を選択します。
5. プロダクトキーを入力します。  
プロダクトキーの入力が必要な場合に入力しないと、OS インストールが無期限で停止して、キーの入力を指示されます。プロダクトキーを入力すると、インストールが再開されます。
6. **展開**をクリックして、OS を作成する準備ができていることを確認します。
7. **適用**をクリックして、OS をインストールします。

## Intelligent Provisioning 環境設定の入力

基本的なシステム設定を入力するには、**新しい展開の作成 > Intelligent Provisioning 環境設定 > 編集**をクリックし、

### 手順

1. ユーザーインターフェイスとキーボードの言語を選択します。
2. ブート BIOS モードに入ります。
3. システムソフトウェアアップデートオプションを選択します。
  - ・ HPE Web サイトからアップデート
  - ・ カスタム URL からアップデート
4. タイムゾーン、システム日付、システム時刻を選択します。
5. アップデートとインストール用のネットワークインターフェイスを選択します。
6. アップデートとインストール用のネットワークインターフェイスを選択してくださいセクションで、ご使用のセットアップに基づいて、以下を選択します。
  - ・ **プロキシを使用** - ネットワーク経由で通信する機能で使用するようネットワークプロキシを構成します。プロキシのアドレスとポートを入力します。
  - ・ **DHCP の自動構成** - (推奨) DHCP が IP アドレスを自動的にサーバーに割り当てます。

---

**注記:** DHCP の自動構成は、IPv6 ネットワークをサポートしません。

---

- ・ **IPv4/IPv6** - IP アドレスのマスクフィールドとして機能します。
7. Intelligent Provisioning EULA に同意します。
  8. **更新**をクリックします。

## アレイ構成設定

アレイ構成ボタンを選択すると、「Intelligent ストレージの構成」ページに移動します。詳細については、**Intelligent ストレージの構成**を参照してください。

## ROM 設定の入力

ROM 設定について詳しくは、**BIOS 構成 (RBSU) ユーティリティの使用**を参照してください。

## BIOS 構成 (RBSU) ユーティリティを使用する

BIOS 構成ページにより、Intelligent Provisioning のいくつかのシステム構成を変更できます。例えば、以下を更新できます。

- ・ Jitter Smoothing
- ・ Workload Matching
- ・ Core Boosting
- ・ ワークロード プロファイル
- ・ ブート オプション
- ・ ストレージオプション
- ・ ネットワーク オプション
- ・ 仮想化オプション

---

**注記:** ロック アイコンが、BIOS オプションの横に表示される場合、そのオプションを変更できません。オプションは、F9 画面に制限されることがあります。または別の設定、例えば、ワークロードの ロファイルを変更する必要があります。

---

**注記:** Intelligent Provisioning は、Smart アレイ P824i-p MegaRAID SAS コントローラーをサポートしません。

---

### 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスを実行**をクリックします。
2. メンテナンス オプションで **BIOS 構成 (RBSU)** を選択します。BIOS 構成 (RBSU) 画面には、次の情報が表示されます。
  - ・ ROM バージョン
  - ・ 保留中のアップデートが、有効な RBSU 依存関係ルールをフォローするか否か

- ・ 保留中の変更数
  - ・ 依存関係ルールにより自動的に変更されるアイテム数
  - ・ BIOS をリセットする
  - ・ ワークロード プロファイル
3. このサーバーの BIOS をリセットするには、**BIOS をリセット**をクリックします。
  4. ワークロード プロファイルを更新するには、**ワークロード プロファイル**をクリックします。
  5. RBSU 構成を変更するには、左側のメニューから選択し、変更する構成を含むセクションを選択します。  
RBSU オプションの説明については、『UEFI システムユーティリティ ユーザーガイド』を参照してください。
  6. 変更を保存するには、**更新**をクリックします。
  7. メンテナンスを実行のホーム画面に戻るには、**前へ**の左矢印をクリックします。

## ハードウェア検証ツールについて

ハードウェア検証ツールは、ご使用のシステムで、コンポーネントの検出を実行し、結果を表示します。以下が可能です。

- ・ システムをテストする
- ・ テスト結果を表示する
- ・ テスト結果をエクスポートする

## ハードウェア検証ツールを使用する

### 手順

1. メインメニューから、**メンテナンスを実行**をクリックします。
2. **ハードウェア検証ツール**をクリックします。  
このツールは、ハードウェア検出を実行します。この検出プロセスには数分かかる場合があります。
3. 検出が完了すると、ツールは、テスト結果を表示します。
4. 次のタブのいずれかを選択します。
  - ・ **結果**: コンポーネントのステータスを表示するには、ハードウェア カテゴリを選択します。
  - ・ **テスト**: このオプションを選択し、実行するテストを作成できます。
  - ・ **エクスポート**: テスト結果をエクスポートします。

## iLO 構成について

iLO 構成画面には、iLO を構成するための次のオプションがあります。



- ・ 概要: iLO 構成の概要を表示します。
- ・ iLO 自己テスト: 自己テスト中、テストされたアイテムが表示されます。
- ・ 管理設定
  - Manager
  - Manager Network services
  - SNMP Service
- ・ Network Interfaces
  - Manager Dedicated Network
  - Interface
  - Manager Shared Network Interface
- ・ User Accounts
  - Account Service
  - ユーザーアカウント管理
  - ユーザーアカウントの追加
- ・ リセット オプション

## マネージャー iLO 管理設定

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメインページで、**メンテナンスの実行 > iLO 構成 > 管理設定 > Manager** を選択します。
2. 以下の設定を行います。
  - ・ IPv6 Multicast Scope
  - ・ Multicast Announcement Interval
  - ・ Multicast Discovery
  - ・ Multicast Time to Live
  - ・ iLO Federation Management
  - ・ Trusted Certificate Required
  - ・ Mass Storage Authentication Required
  - ・ USB Ethernet Adapters Enabled
  - ・ USB Flash Drive Enabled
  - ・ iLO Service Port enabled

- ・ Clear Rest API Status
- ・ Configuration Settings
- ・ Idle Connection Timeout Minutes
- ・ RIBCL Enabled
- ・ Persistent Mouse Keyboard Enabled
- ・ Required Login for iLO RBSU
- ・ Serial CLI Speed
- ・ Enabled Auth Required
- ・ VSP DI Logging Enabled
- ・ Web GUI enabled
- ・ iLO RBSU Enabled
- ・ VSP Log Download Enabled
- ・ iLO Functionality Required
- ・ iLO IP during Post Enabled
- ・ Command Shell Max Concurrent Sessions

3. **設定の保存**をクリックして変更を保存します。

## iLO 管理マネージャーネットワークサービスおよび仮想ネットワークサービスの設定

ネットワークマネージャーアラートを送信するには、この機能を有効にして情報を指定します。

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメインページで、**メンテナンスの実行 > iLO 構成 > 管理設定 > Manager Network Services** をクリックします。
2. 以下の設定を行います。
  - ・ Alert Mail Email
  - ・ Alert Mail Enabled
  - ・ Alert Mail SMTP Port
  - ・ Alert Mail SMTP Server
  - ・ Alert Mail Sender Domain
  - ・ Configuration Settings
  - ・ Federation Enabled
  - ・ Remote Syslog Enabled
  - ・ Federation Supported

- ・ Remote Syslog Port
- ・ SNMP Trap Port
- ・ Serial of Lan Logging
- ・ XML Response Enabled
- ・ 以下について有効なポートとプロトコル :
  - HTTP
  - HTTPS
  - IPMI
  - KVMIP
  - SNMP
  - SSH
  - Virtual Media
- ・ SSDP
  - Notify IPV6 Scope
  - Notify Multicast Interval Seconds
  - Notify TTL
  - Port
  - Protocol Enabled
- ・ FQDN
- ・ Host Name

3. 設定の保存をクリックして変更を保存します。

## iLO 管理 SNMP の設定

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメインページで、**メンテナンスの実行 > iLO 構成 > 管理設定 > SNMP Service** を選択します。
2. 以下の設定を行います。
  - ・ Alerts Enabled
  - ・ Alert Destination Contacts
  - ・ Periodic HSA Trap Config
  - ・ Location:サーバーの物理的な位置
  - ・ Read Communities:最大 3 つの読み取り専用コミュニティを設定できます。

- ・ Role:サーバーの役割または機能の定義。
- ・ Role Detail:サーバーが実行するタスクの説明を入力します。
- ・ SNMPv3 Engine ID:このサーバーの一意の SNMP ID。
- ・ SNMPv3 Inform Retry Attempt:実行する SNMP 再試行回数。
- ・ SMPv3 Inform Retry Interval Seconds
- ・ SNMP Trap Communities:最大 8 つのトラップコミュニティ文字列を指定できます。
- ・ Trap Source Hostname:SNMP トラップを生成する際に使用されるホスト名。
- ・ Users:SNMPv3 USM パラメーターについて最大 8 つのユーザープロファイルを作成します。
- ・ SNMP Cold Start Trap Broadcast

3. **設定の保存**をクリックして変更を保存します。

## iLO マネージャー専用ネットワークインターフェイスの設定

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメイン画面で、**メンテナンスの実行 > iLO 構成 > ネットワークインターフェイス > Manager Dedicated Network Interface** をクリックします。
2. 以下の設定を行います。
  - ・ Auto Neg:このオプションを選択すると、速度とデュプレキシングが NIC により自動的に構成されます。
  - ・ FQDN
  - ・ Frame Size
  - ・ 全二重 : NIC の全二重が有効になります。Auto Neg はこのオプションより優先されます。
  - ・ Host Name: DNS ホスト名を指定します。
  - ・ IPv4 Addresses
  - ・ IPv6 Addresses
  - ・ IPv6 Static Addresses
  - ・ IPv6 Default Gateway
  - ・ Link Status (of this port)
  - ・ MAC address
  - ・ Max IPv6 Static Addresses
  - ・ Name Servers
  - ・ Permanent MAC Address
  - ・ Speed Mbps
  - ・ UEFI Device Path

- ・ DHCPv4
  - Enabled
  - Use DNS Servers
  - Use Domain Name
  - Use Gateway
  - Use NTP Servers
  - Use Static Routes
- ・ SLAAC Enabled
- ・ Static Default Gateway
- ・ Static Routes
- ・ Shared Network Port Options
  - NIC
  - Port
- ・ Configuration Settings
- ・ Domain Name
- ・ Host Name
- ・ Host Name
- ・ NIC Enabled
- ・ Ping Gateway On Startup
- ・ NIC supports IPv6
- ・ Supports Flexible LOM

3. **設定の保存**をクリックして変更を保存します。

## iLO マネージャー共有ネットワークインターフェイスの設定

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメイン画面で、**メンテナンスの実行 > iLO 構成 > ネットワークインターフェイス > Manager Shared Network Interface** をクリックします。
2. 以下の設定を行います。
  - ・ Auto Neg: このオプションを選択すると、速度とデュプレキシングが NIC により自動的に構成されます。
  - ・ FQDN
  - ・ Frame Size

- ・ 全二重 : NIC の全二重が有効になります。Auto Neg はこのオプションより優先されます。
- ・ Host Name: DNS ホスト名を指定します。
- ・ IPv4 Addresses
- ・ IPv6 Addresses
- ・ IPv6 Static Addresses
- ・ IPv6 Default Gateway
- ・ Link Status (of this port)
- ・ MAC address
- ・ Max IPv6 Static Addresses
- ・ Name Servers
- ・ Permanent MAC Address
- ・ Speed Mbps
- ・ UEFI Device Path
- ・ DHCPv4
  - Enabled
  - Use DNS Servers
  - Use Domain Name
  - Use Gateway
  - Use NTP Servers
  - Use Static Routes
- ・ SLAAC Enabled
- ・ Static Default Gateway
- ・ Static Routes
- ・ Shared Network Port Options
  - NIC
  - Port
- ・ Configuration Settings
- ・ Domain Name
- ・ Host Name
- ・ Host Name
- ・ NIC Enabled
- ・ Ping Gateway On Startup

- ・ NIC supports IPv6
- ・ Supports Flexible LOM

3. **設定の保存**をクリックして変更を保存します。

## iLO アカウントサービスの構成

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメインページで、**メンテナンスの実行 > iLO 構成 > ユーザーアカウント > Account Service** をクリックします。
2. 以下の設定を行います。
  - ・ Auth Failure Delay Time Seconds
  - ・ Auth Failure Logging Threshold
  - ・ Auth Failures Before Delay
  - ・ Default Password
  - ・ Default User Name
  - ・ Min Password Length
3. **設定の保存**をクリックして変更を保存します。

## iLO アカウントサービスの構成

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメインページで、**メンテナンスの実行 > iLO 構成 > ユーザーアカウント > Account Service** をクリックします。
2. 以下の設定を行います。
  - ・ Auth Failure Delay Time Seconds
  - ・ Auth Failure Logging Threshold
  - ・ Auth Failures Before Delay
  - ・ Default Password
  - ・ Default User Name
  - ・ Min Password Length
3. **設定の保存**をクリックして変更を保存します。

## ユーザーアカウントの追加

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメインページで、**メンテナンスの実行 > iLO 構成 > ユーザーアカウント > ユーザーアカウントの追加**をクリックします。
2. 次の情報を入力します。
  - ・ ログイン名
  - ・ ユーザー名
  - ・ パスワード
  - ・ パスワードの確認
3. サービスユーザーの場合は、**サービスアカウント**を選択します。
4. **追加**をクリックしてアカウントを作成します。

## iLO のリセット

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメインページで、**メンテナンスの実行 > iLO 構成 > リセットオプション**をクリックします。
2. 以下のオプションから選択します。
  - ・ iLO のリセット
  - ・ 工場出荷時の設定にリセット
  - ・ RESTful API の状態のクリア

## iLO 構成ユーティリティを使用する

iLO 構成ユーティリティを使用して、iLO Web インターフェイスからではなく、Intelligent Provisioning から iLO 設定を表示または変更します。iLO に関する詳細情報については、HPE iLO 5 ユーザーガイドを参照してください。

画面表示を更新するには、**F5** キーを押します。iLO Web インターフェイス経由で同時に変更が行われた可能性があります。

### 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスを実行**をクリックします。
2. メンテナンス オプションから、**iLO 構成**を選択します。  
iLO 構成ユーティリティ ウィンドウが表示されます。



## iLO 概要情報を表示する

### 手順

1. メンテナンスを実行画面で、**iLO 構成**をクリックします。  
iLO 構成ユーティリティ画面が開きます。
2. **概要**をクリックします。次の情報が表示されます。
  - ・ **BMC iLO Firmware Version** - インストールされている iLO ファームウェアのバージョンおよび日付です。
  - ・ **FQDN** - iLO サブシステムの完全修飾 domain name (FQDN) です。
  - ・ **BMC iLO IPv4 Address** - iLO サブシステムのネットワーク IPv4 Address
  - ・ **BMC iLO IPv6 Address** - iLO サブシステムのネットワーク IPv6 Address

この情報は、iLO Web インターフェイスの概要画面にも表示されます。詳細情報については、HPE iLO 5 ユーザーガイドを参照してください。

## iLO 自己テストの実行

iLO 自己テストを実行することで、特定のサーバーハードウェアコンポーネントのステータスがチェックされます。

### 手順

1. iLO 設定ユーティリティ画面で、**iLO 自己テスト**をクリックします。  
自己テストが実行され、結果画面が表示されます。
  - ・ 正常に実行されたテストの後には、緑色のチェックマークが付きます。
  - ・ 失敗したテストの後には赤色の「×」が付きます。

iLO 自己テストと、結果の解釈方法およびトラブルシューティングについて詳しくは、HPE iLO 5 ユーザーガイドを参照してください。

## iLO 管理設定の編集

管理画面の次の3つのタブから、各種の iLO 管理設定を編集できます。

- ・ Manager
- ・ Manager Network services
- ・ SNMP Service



**ヒント:** フィールドの説明を表示するには、ヒント情報が表示されるまでそのフィールドにポインターを合わせます。

タブフィールドについて詳しくは、HPE iLO 5 ユーザーガイドを参照してください。

---

## 手順


- ・ **管理タブ**の管理設定を編集するには、以下の手順に従ってください。
  1. iLO 設定ユーティリティ画面で、**設定管理**をクリックします。

管理タブが表示されます。連携構成、iLO サービスポート、コマンドシェル、グラフィカルコンソール、およびシリアルコンソール用のオプションが含まれています。
  2. オプションを編集します。
  3. iLO 設定画面の右上隅にある**構成管理**をクリックして、変更を保存します。
- ・ **ネットワーク管理サービス**にある管理設定を編集するには、以下の手順に従ってください。
  1. iLO 設定ユーティリティ画面で、**ネットワーク管理サービス**をクリックします。

ネットワーク管理サービスタブが表示されます。アラートメール、HTTP、HTTPS、IPMI、KVMIP、SNMP、SSDP、SSH、および仮想メディアの設定が含まれています。
  2. オプションを編集します。
  3. iLO 設定画面の右上隅にある**ネットワーク管理サービスを構成**をクリックして、変更を保存します。
- ・ **SNMP Service** タブの管理設定を編集するには、以下の手順に従ってください。
  1. **iLO 設定ユーティリティ画面で、SNMP Service** をクリックします。

SNMP Service タブが表示されます。アラート、読み取り専用コミュニティ、SNMP v1 ラップ、トラップコミュニティ、およびユーザーの設定が含まれています。

---

 **ヒント:** フィールドの説明を表示するには、ヒント情報が表示されるまでそのフィールドにポインターを合わせます。SNMP Service タブフィールドについて詳しくは、HPE iLO 5 ユーザーガイドを参照してください。

---
  2. オプションを編集します。
  3. iLO 構成画面の右上隅にある **SNMP Service を構成** をクリックして、変更を保存します。

## ネットワークインターフェイス設定を編集する

### 手順

1. **iLO 構成ユーティリティ**をクリックし、**ネットワークインターフェイス**をクリックします。
2. 設定を各タブで編集します。
3. **適用**をクリックします。

**概要** - このタブには、現在の iLO 情報が表示されます。

- ・ **使用中の NIC** - 現在使用している NIC 構成 (例えば、iLO 専用ネットワーク Port または共有ネットワーク Port)。
- ・ **iLO Host Name** - iLO サブシステムの DNS 名 (例えば、ilo.example.com の代わりに iLO)。この名前は、DHCP と DNS が IP アドレスではなく iLO サブシステム名に接続するよう構成されている場合のみ使用されます。詳細情報については、iLO 4 ユーザーガイドを参照してください。

- ・ **MAC Address** - NIC の MAC Address。
- ・ **リンク状態** - 現在のリンク状態 (iLO 専用ネットワーク Port のみ)。
- ・ **デュプレックスオプション** - 現在のデュプレックス (全二重または半二重)。
- ・ **DHCPv4 ステータス** - 有効または無効。
- ・ **IPv6 ステートレス アドレス自動構成 (SLAAC)** - 有効または無効。
- ・ **SLAAC アドレス** - iLO による作成された IPv6 の物理的地址。

#### 全般タブ:

- ・ iLO ホスト名の設定
  - **iLO ホスト名** - iLO サブシステムの DNS 名 (例えば、ilo.example.com の代わりに ilo)。この名前は、DHCP と DNS が IP アドレスではなく iLO サブシステム名に接続するよう構成されている場合のみ使用されます。詳細情報については、iLO 4 ユーザーガイドを参照してください。
  - **Domain Name** - iLO のドメイン名。DHCP を使用していない場合は、Domain Name を入力します。
- ・ NIC 設定
  - **iLO 専用ネットワーク Port の使用** - チェック ボックスを選択している場合、システムがサーバー背面のコネクタで NIC を使用していることを示します。NIC は、iLO トラフィックのみを処理します。このチェック ボックスをブランクのままにしている場合、システムが共有ネットワーク Port を使用していることを示します。共有ネットワーク Port には 2 タイプあります。
    - LOM - サーバーに組み込まれている NIC を使用します。この NIC は、サーバー ネットワークトラフィックを処理し、同時に iLO トラフィックを処理するように iLO を構成することもできます。
    - FlexibleLOM - サーバーの特殊なコネクタに接続するオプションの NIC を使用します。この NIC は、サーバー ネットワークトラフィックを処理し、同時に iLO トラフィックを処理するように iLO を構成することもできます。一部のサーバーは、FlexibleLOM をサポートしません。共有ネットワーク Port - FlexibleLOM オプションをサポートするサーバーのリストについては、iLO 4 ユーザーガイドを参照してください。
- ・ リンク状態 (iLO 専用ネットワーク Port のみ)。
  - **自動 (デフォルト)** - ネットワークに接続する際に、サポート対象の最高リンク速度とデュプレックス設定をネゴシエートする iLO を有効化します。
  - **1000Base T, 全二重** - 全二重を使用する 1 Gb 接続を強制します (BL c-Class サーバーは未サポートです)。
  - **1000Base T, 半二重** - 半二重を使用する 1 Gb 接続を強制します (BL c-Class サーバーは未サポートです)。
  - **100BaseT, 全二重** - 全二重を使用する 100 Mb 接続を強制します。
  - **100BaseT, 半二重** - 半二重を使用する 100 Mb 接続を強制します。
  - **10Base T, 全二重** - 全二重を使用する 10 Mb 接続を強制します。
  - **10Base T, 半二重** - 半二重を使用する 10 Mb 接続を強制します。

## IPv4 タブ:

- ・ **DHCPv4 を有効化する** - iLO を有効化して、DHCP サーバーから IP アドレス (およびその他の多くの設定) を入手します。
  - **DHCPv4 提供のゲートウェイを使用する** - iLO が、DHCP サーバー提供のゲートウェイを使用するかどうかを指定します。DHCP を使用しない場合は、ゲートウェイアドレスをゲートウェイ IPv4 Address ボックスに入力します。
  - **DHCPv4 提供の静的経路を使用する** - iLO が、DHCP サーバー提供の静的経路を使用するかどうかを指定します。使用しない場合は、静的経路の宛先、マスク、およびゲートウェイアドレスを静的経路 #1、静的経路 #2、および静的経路 #3 のボックスに入力します。
  - **DHCPv4 提供の Domain Name を使用する** - iLO が、DHCP サーバー提供の Domain Name を使用するかどうかを指定します。DHCP を使用しない場合は、Domain Name を共有ネットワーク Port ページの Domain Name ボックスに入力します。
  - **DHCPv4 提供の DNS サーバーを使用する** - iLO が、DHCP サーバー提供の DNS サーバーリストを使用するかどうかを指定します。使用しない場合は、DNS サーバーアドレスをプライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー、およびターシャリ DNS サーバーのボックスに入力します。
  - **DHCPv4 提供の時間設定を使用する** - iLO が、DHCPv4 サーバー提供の時間を使用するかどうかを指定します。
  - **DHCPv4 提供の WINS サーバーを使用する** - iLO が、DHCP サーバー提供の WINS サーバーリストを使用するかどうかを指定します。使用しない場合は、WINS サーバーアドレスをプライマリ WINS サーバーおよびセカンダリ WINS サーバーのボックスに入力します。
- ・ **IPv4 Address** - iLO の IP アドレスです。DHCP を使用している場合、iLO IP アドレスは自動的に提供されます。DHCP を使用していない場合は、静的 IP アドレスを入力します。
- ・ **サブネットマスク** - iLO IP ネットワークのサブネットマスクです。DHCP を使用している場合、サブネットマスクは自動的に提供されます。DHCP を使用していない場合、ネットワークのサブネットマスクを入力します。
- ・ **ゲートウェイの IPv4 Address** - iLO ゲートウェイの IP アドレスです。DHCP を使用している場合、iLO ゲートウェイの IP アドレスは自動的に提供されます。DHCP を使用していない場合は、iLO ゲートウェイの IP アドレスを入力します。
- ・ **静的経路 #1、静的経路 #2、および静的経路 #3** - iLO 静的経路に宛先、マスク、およびゲートウェイアドレスです。**DHCPv4 提供の静的経路を使用する**を使用すると、これらの値は自動的に提供されます。使用しない場合は、静的経路の値を入力してください。
- ・ **プライマリ DNS サーバー** - プライマリ DNS サービスの IPv4 Address を入力します。
- ・ **セカンダリ DNS サーバー** - セカンダリ DNS サービスの IPv4 Address を入力します。
- ・ **ターシャリ DNS サーバー** - ターシャリ DNS サービスの IPv4 Address を入力します。

---

**注記:** DNS サーバーの場所が IPv4 と IPv6 の両方で設定されている場合、両方のソースが使用されません。IPv6 を先に使用する iLO クライアント アプリケーションは、構成オプションで与えられた優先設定に従い、最初にプライマリ ソース、次に、セカンダリ ソース、最後にターシャリ ソースを使用します。

---

- ・ **DNS サーバー登録を有効化する** - このオプションを選択すると、iLO は、その IPv4 Address と名前を DNS サーバーと使って登録できます。
- ・ **プライマリ WINS サーバー** - プライマリ WINS サーバーの IPv4 Address を入力します。
- ・ **セカンダリ WINS サーバー** - セカンダリ WINS サーバーの IPv4 Address を入力します。

- ・ **WINS サーバー登録を有効化する** - このチェック ボックスを選択すると、iLO は、WINS サーバー用の IPv4 Address を登録できます。
- ・ **Ping Gateway on Startup** - このチェック ボックスを選択して、iLO を初期化したとき、iLO に要求パケットをゲートウェイに送信させます。

#### IPv6 タブ:

- ・ **iLO クライアント アプリケーションがまず IPv6 を使用する** - IPv4 および IPv6 サービス アドレスの両方が iLO クライアント アプリケーション向け構成される場合、このオプションは、クライアント アプリケーションにアクセスする際、どちらのプロトコル iLO が最初に試行するか指定します。この設定は、FQDN を使用して NTP を構成する場合、名前リゾルバーから受信したアドレスのリストにも適用されます。
  - iLO が IPv6 を先に使用する場合は、このチェック ボックスを選択します。
  - iLO が IPv4 を先に使用する場合は、このチェック ボックスをクリアします。

最初のプロトコルを使用して通信に失敗した場合、iLO は自動的に 2 番目のプロトコルを試みます。

- ・ **ステートレス アドレス自動構成 (SLAAC) を有効化する** - このチェック ボックスを選択して、iLO が、ルーター広告メッセージから自身の IPv6 Address を作成できるようにするにします。

注記: iLO は、このオプションが選択されていない場合でも、自身のリンクローカル アドレスを作成します。

- ・ **プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー、ターシャリ DNS サーバー** - DNS サービスの IPv6 Address を入力します。DNS サーバーの場所が IPv4 と IPv6 の両方で設定されている場合、両方のソースが使用されます。IPv6 を先に使用する iLO クライアント アプリケーションは、構成オプションで与えられた優先設定に従い、最初にプライマリ ソース、次に、セカンダリ ソース、最後にターシャリ ソースを使用します。
- ・ **DHCPv6 提供の NTP サーバーを使用する** - このオプションは、iLO が、DHCPv6 サーバーから提供される時間を使用するかどうかを決定します。
- ・ **DDNS サーバー登録を有効化する** - このオプションは、iLO が、その IPv6 Address と名前を DNS サーバーを使って登録するかどうかを決定します。
- ・ **静的 IPv6 Address 1 - 4** - 自動的に割り当てられていない場合、最大 4 つの静的 IP Address を入力します。アドレスのプレフィックス長を指定する必要があります。
- ・ **静的デフォルトゲートウェイ** - ネットワークにルーター広告メッセージが存在しない場合、IPv6 のデフォルトのゲートウェイアドレスを入力します。
- ・ **静的経路#1 (宛先/ゲートウェイ)、静的経路 #2 (宛先)、静的経路 #3** - 静的 IPv6 ルート宛先のプレフィックスとゲートウェイアドレスのペアを入力します。宛先のプレフィックス長を指定する必要があります。リンクローカル アドレスは、宛先としては許可されませんが、ゲートウェイとしては許可されます。

#### SNTP タブ:

- ・ **DHCPv4 提供の時間設定を使用する** - iLO が、DHCP サーバー提供の時間を使用するかどうかを指定します。
- ・ **DHCPv6 提供の時間設定を使用する** - iLO が、DHCP サーバー バージョン 6 提供の時間を使用するかどうかを指定します。

- ・ **NTP 時間をホストに反映する** - iLO が、DHCP サーバー提供の時間ではなく、NTP 時間を使用するかどうかを指定します。
- ・ **プライマリ時間サーバー** - DHCPv4 または DHCPv6 SNTP が使用されない場合、時間サーバーアドレスをプライマリ タイム サーバー ボックスに入力します。
- ・ **セカンダリ時間サーバー** - DHCPv4 または DHCPv6 SNTP が使用されない場合、セカンダリ時間サーバーアドレスをセカンダリ タイム サーバー ボックスに入力します。
- ・ **タイムゾーン** - 世界中のタイムゾーンのドロップ ダウン リストです。

## ユーザー アカウント設定を編集する

### 手順

- ・ **新規ユーザーを追加するには:**

1. iLO 構成ユーティリティ画面で、**ユーザーアカウント**をクリックします。  
ユーザーアカウント画面が表示されます。

2. **ユーザーアカウントを追加する**をクリックします。  
ユーザーを追加画面が表示されます。

3. **ユーザー名**を入力します。

これは、ユーザーアカウント ページおよび iLO 概要ページ上のユーザーリストに表示される名前です。ユーザー名は、ログイン名と同じである必要はありません。ユーザー名の最大長は 39 文字です。ユーザー名には、印字可能な文字を使用する必要があります。

4. **ログイン名**を入力します。ログイン名の最大長は 39 文字です。ログイン名には、印字可能な文字を使用する必要があります。

❗ **重要:** ログイン名は、一度設定すると変更できません。

5. **パスワード**を入力します。パスワードの最小長は、**アクセス設定**ページで設定されます。パスワードの最大長は 39 文字です。

6. **パスワード**を再入力して確認します。

7. 追加するユーザーに適したアクセス許可を選択します。

- **ログイン** - iLO にログインできます。
- **ホスト BIOS** - UEFI システムユーティリティを使用してホスト BIOS 設定を構成できます。
- **ホスト NIC** - ホストストレージ設定を構成できます。
- **ホストストレージ** - ホストストレージ設定を構成できます。
- **リカバリ設定** - リカバリ インストール設定を管理できます。
- **ユーザーアカウントを管理する** - ローカルの iLO ユーザーアカウントを追加、編集、および削除できます。この特権を持つユーザーは、すべてのユーザーの特権を変更できます。この特権がないと、本人の設定の表示と本人のパスワードの変更しか実行できません。

- **iLO 設定を構成する** - セキュリティ設定を含む大部分の iLO 設定を構成し、iLO ファームウェアをリモートで更新できます。この特権は、ローカル ユーザー アカウント管理を有効化しません。
- **リモートコンソール アクセス** - ビデオ、キーボードおよびマウス制御を含むホストシステムのリモートコンソールにアクセスできます。
- **仮想メディア** - ホストシステムで仮想メディア機能を使用できます。
- **仮想電源およびリセット** - ホストシステムの電源再投入またはリセットを実行できます。これらのアクティビティは、システム可用性に割り込みます。この特権を持つユーザーは、ボタンを使用してシステムを診断できます。

8. **追加**をクリックします。

・ **既存のユーザーアカウントを編集するには:**

1. iLO 構成ユーティリティ画面で、**ユーザー アカウント**をクリックして、**ユーザー アカウントを管理する**をクリックします。  
ユーザーアカウント画面が表示されます。
2. ユーザーアカウントを選択します。
3. ユーザーのパスワードを入力します。パスワードを再入力して確認します。
4. チェック ボックスを選択して、ユーザーパーミッションを変更します。
5. **更新**をクリックします。

・ **ユーザーアカウントを削除するには:**

1. iLO 構成ユーティリティ画面で、**ユーザーアカウント**をクリックします。
2. **ユーザーアカウントを管理**リストで、削除するユーザーアカウントを選択します。
3. **削除**をクリックし、**OK**をクリックします。

## iLO をリセットする

### 手順

1. iLO 構成ユーティリティ画面で、**リセット オプション**をクリックします。  
iLO をリセット画面が表示されます。
2. 次のいずれかのオプションを選択します。
  - ・ **iLO をリセット** - iLO をリセット (再起動) します。
  - ・ **工場出荷時デフォルト設定にリセット** - 工場出荷時のデフォルト設定を復元します。

iLO がリセットされ、再度ログインする必要があります。

## Intelligent ストレージを構成する

Intelligent ストレージオプションを使用すると、以下が可能です。

- ・ アレイを作成する
- ・ 論理ドライブを作成する
- ・ 構成設定を変更する
- ・ システムメッセージを表示する

## 新しいアレイを作成する

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメイン ウィンドウで、**メンテナンスを実施 > Intelligent Storage 構成 > アレイを作成 > コントローラー詳細または論理ドライブを作成**をクリックします。
2. **+アレイを作成**をクリックします。
3. 単純なアレイを作成するには、**単純なアレイ**をクリックします。
4. **論理ドライブのタイプ**を選択します。
5. **ドライブの数**を選択します。
6. **論理ドライブ名**を入力します。
7. RAID モードを選択します。
8. **最小アレイ サイズ**します。
9. アレイ設定を確認します。
10. **送信**をクリックします。

## アレイまたは論理ドライブを構成する

### 手順

1. Intelligent Provisioning のメイン ウィンドウで、**メンテナンスを実行 > Intelligent ストレージ構成 > 構成**をクリックします。  
Intelligent Provisioning は、**全般構成**ページに移動します。
2. 次のオプションを変更します。

**注記:** 変更は即時に有効になります。

- ・ 全般
  - 変換の優先順位
  - 再構築の優先順位
  - 表面スキャン分析の優先順位



- 表面スキャン分析の遅延 (秒)
- 現在のパラレル表面スキャン数
- ・ 詳細
  - RAID 6/60 代替整合性修復ポリシー
  - 最大ドライブ数要求キュー深度
  - モニターおよびパフォーマンス分析遅延 (秒)
  - HDD フレキシブルな遅延時間最適化
  - パリティ RAID 縮退モードパフォーマンス最適化
  - 物理ドライブの要求エレベーター ソート
- ・ キャッシュ
  - 読み取りキャッシュ パーセンテージ
  - バッテリ未装着時の書き込みキャッシュ
  - 書き込みキャッシュバイパスしきい値 (KiB)
  - 物理ドライブ書き込みキャッシュ
- ・ スペア
  - 予測スペア アクティブ化モード
- ・ 電源
  - 電源モード
  - サバイバル モード

## 完全消去およびリセットの使用

完全消去およびリセットを使用して、ハードディスクドライブと Intelligent Provisioning 環境設定をクリアします。

### システムを消去するおよびオプションをリセットする

次の表には、システムの消去およびリセット メニューのオプションと、各オプションを選択して実行される内容の説明が記載されています。

オプション	説明
すべてのハードドライブ	このサーバー上のすべてのハードドライブを消去します。
ハードドライブをワイプする	すべてのハードドライブが選択されている場合に表示されます。 データパターンをすべてセクターに書き込みます。このパターンの書き込みには、ハードドライブ 1 台あたり数時間かかります。
不揮発性ストレージの完全消去	すべてのユーザーおよびサービスとサポートの完全なハードウェア消去が実行されます。このプロセスは、最大 24 時間かかる場合があります、完了するまで中断できません。
注記: DoD 5220.22-M Data Wipe のガイドラインを使用して消去します。	<p>❗ <b>重要:</b> 不揮発ストレージの完全消去機能を GUI で表示して正常に機能させるためには適切な iLO ライセンスが必要です。詳細情報については、HPE iLO ライセンス ガイドを参照してください。</p>
Intelligent Provisioning 優先設定 Intelligent Provisioning 優先設定をクリアします。	

## 完全消去の使用

インテリジェントプロビジョニングは、DoD 5220.22-M のガイドラインに従って、内蔵システムストレージおよびハードディスク用のセキュア消去機能を備えています。完全消去は、ランダムパターンを 3 パスプロセスで適用することで、システムに接続されているすべてのブロックデバイスを上書きします。これらのブロックデバイスには、ハードディスク、サーバーに接続されているストレージシステム、iLO が使用している内蔵ストレージが含まれます。システムに取り付けられたストレージの量によっては、完全消去プロセスが完了するまでに数時間、あるいは数日かかることがあります。

### △ 注意:

- 完全消去は、システムが停止しているときのみ、細心の注意を払って使用してください。完全消去プロセスは iLO をリセットしてそこに保存されているすべてのライセンスを削除し、ほとんどの場合に BIOS 設定をリセットし、システムに保存されているすべての AHS データおよび保証データを削除します。完全消去プロセスは、あらゆる展開設定プロファイルも削除します。iLO は、このプロセスが完了した後に、複数回再起動します。
- FCoE、iSCSI、外部 SAS、ファイバーチャネルストレージは、完全消去を使用する前に切断しないと、これらも消去されてしまいます。

## RAID を構成する

Intelligent Provisioning により、HPE SSA を開き、RAID を構成できます。

## HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) の使用

HPE SSA は、すべての Smart アレイ製品用の高可用性構成、管理、および診断機能を提供します。

### HPE SSA の機能

HPE SSA は、オフラインモードとオンラインモードの両方で実行できるブラウザーベースのユーティリティです。HPE SSA :

- ・ オンラインでのアレイ容量の拡張、論理ドライブの容量の拡大、オンラインスペアの割り当て、および RAID またはストライプサイズの移行をサポートします。
- ・ 未設定のシステムに対して最適な構成を提示。
- ・ 各種の動作モードにより、構成作業を迅速化し、構成オプションをより自由にコントロールできます。
- ・ 構成手順のステップごとに画面にヒントを表示します。

HPE SSA で、画面の左上にあるメニューからコントローラーを選択できます。または、同じメニューから利用可能なコントローラーの構成または診断を選択できます。

## HPE SSA へのアクセス

### 手順

1. Intelligent Provisioning のホーム画面で、**メンテナンスの実行**をクリックします。
2. メンテナンスオプションで **RAID 構成**を選択します。  
Smart Storage Administrator ウィンドウが表示されます。

### 構成

Smart Storage Administrator 画面の**アクション**で、**構成**をクリックします。以下のオプションがあります。

- ・ **コントローラーの設定** - サポートされるコントローラーを設定します。コントローラーによっては、これらにアレイ アクセラレータのキャッシュ比の設定、変換と再構築の優先順位、および表面スキャン遅延を含めることができます。
- ・ **キャッシュ設定** - キャッシュメモリを利用することで、パフォーマンスの向上に役立つようなサポート対象のキャッシュ設定を行うことができます。また、バッテリーまたはキャパシタを使用する際に、キャッシュはデータの整合性を保護します。
- ・ **構成をクリア** - コントローラーの構成をデフォルト状態にリセットします。既存のアレイまたは論理ドライブが削除され、論理ドライブのデータが失われます。これは、実行する前に望ましい操作であるかどうか確認します。
- ・ **物理ドライブ書き込みキャッシュ設定** - コントローラーに接続されている物理ドライブ書き込みキャッシュを有効または無効にします。この機能はパフォーマンスを改善できますが、注意してデータの整合性を確認する必要があります。
- ・ **スペアの有効モードを変更** - スペアの有効モードをデフォルト ビヘイビア (障害時のみ有効化) から予測スペアの有効に切り替えます。
- ・ **ブート可能な論理ドライブ/ボリュームの設定** - プライマリおよびセカンダリのブート論理ドライブとボリュームを設定します。ローカル論理ドライブおよびリモート論理ドライブおよびボリュームが、選択用に記載されています。
- ・ **ライセンス キーの管理** - ライセンス キーを追加または削除できます。入力または削除したキーに応じて、さまざまな機能を有効または無効にできます。
- ・ **詳細の表示** - 現在選択しているデバイスとそのすべての子デバイスに関して、可能な場合に、詳細情報を表示します。

## 診断/SmartSSD

Smart Storage Administrator 画面の**アクション**で、**診断**をクリックします。以下のオプションがあります。

- ・ **アレイ診断レポート** - 選択したコントローラーに対してレポート機能を実行して、利用可能な診断タスクを表示します。レポートには、サポートされるソリッドステートドライブの SmartSSD Wear Gauge 情報が含まれます。
  - **診断レポートの表示** - 選択したデバイスの診断レポートを生成し、表示します。レポートには、サポートされるソリッドステートドライブの SmartSSD Wear Gauge 情報および使用率および予想寿命情報が含まれます。
  - **診断レポートの保存** - グラフィック表示せずに、エクスポート用に選択したデバイスの診断レポートを生成します。
- ・ **SmartSSD Wear Gauge レポート** - レポートを表示または生成します
  - **SmartSSD Wear Gauge レポートの表示** - SSD の使用率および推定寿命情報を表示します。
  - **SmartSSD Wear Gauge レポートの保存** - エクスポート用のレポートが生成されますが、グラフィカルには表示されません。

# USB Key Utility の使用

USB Key Utility は、Intelligent Provisioning または SPP の内容、およびその他の CD または DVD イメージを USB フラッシュドライブにコピーする Windows アプリケーションです。USB フラッシュドライブにデータをコピーした後、Intelligent Provisioning または SPP を、CD または DVD からではなく、USB フラッシュドライブから実行できるようになります。このプロセスは、ヘッドレスサーバーを操作する場合に役立ちます。また、Web から取得したイメージの内容を必要に応じてカスタマイズできるため、内容の保存、移動、および使用が簡単になります。

ユーティリティをインストールすると、スタートメニューのシステムツールにショートカットが追加されます。

## 機能

USB Key Utility は以下をサポートします。

- ・ 1 GB より大きな ISO ファイル。
- ・ USB フラッシュドライブのクイックフォーマット機能。
- ・ 最大 32 GB までの USB フラッシュドライブ。32 GB より大きな USB フラッシュドライブはユーティリティに表示されません。

## 前提条件

USB フラッシュドライブにアプリケーションをインストールするには、サポートされるソース CD、DVD、または ISO と、それらソースの内容を保存できるだけの空きスペースを備えた USB フラッシュドライブを用意する必要があります。USB Key Utility では、メディアまたは ISO イメージよりも大きいストレージ容量 (2 GB 以上) を備える USB 2.0 フラッシュドライブが必要です。

**注記:** バージョン 2.0 以降の USB Key Utility は、32 ビットオペレーティングシステムをサポートしません。

### AutoRun ファイル

AutoRun ファイルはユーティリティから自動的に開始しません。AutoRun ファイルを起動するには、USB キー上の該当する CD または DVD フォルダーで、autorun.exe ファイルをダブルクリックします。

## ブート可能な USB キーの作成

ユーティリティをインストールすると、USB キー ユーティリティプログラム グループのショートカットが、プログラム スタート メニュー フォルダーに追加されます。

### 手順


1. **USB キー ユーティリティ ショートカット**を USB キー ユーティリティ フォルダーでダブルクリックします。
2. アプリケーションの指示に従い、次の各手順を行います。
  - a. スプラッシュ画面で、**次へ**をクリックします。
  - b. エンドユーザー使用許諾契約書を読んだら、**同意する**を選択し、**次へ**をクリックします。
  - c. **ブート可能 USB キー**を **CD/DVD から作成**を選択し、**次へ**をクリックします。

---


**注記:** SUM 6.2.0、SPP 2014.02.0、または、Intelligent Provisioning 1.60 以降で **CD/DVD をブート可能 USB キーに追加オプション**を選択しないでください。これらの製品は、シングル デバイスでのマルチブート環境をサポートしなくなりました。

---

- d. USB フラッシュ ドライブを利用可能な USB ポートに配置します。メディアをオプティカルドライブに挿入するか、ISO イメージをマウントして、**次へ**をクリックします。
- e. ソースのドライブ文字およびターゲット USB フラッシュ ドライブのドライブ文字を選択し、**次へ**をクリックします。

 **ヒント:** ドライブ キーが見つからない場合は、**ターゲットを再スキャン**をクリックするか、新しいドライブ キーを挿入してください。

---

 **注意:** ターゲット USB キー上のすべてのデータが削除されます。

---

- f. 警告メッセージ画面で**次へ**をクリックします。

USB フラッシュ ドライブがフォーマットされ、ソース コンテンツが USB フラッシュ ドライブにコピーされます。

- g. README.TXT ファイルを表示するには、**完了**をクリックします。

**注記:** ISO に表示する README.TXT ファイルが 1 つ含まれている場合にのみ、ファイルが表示されます。

---

## コンテンツをブート可能 USB キーに追加する

USB フラッシュ ドライブに十分な使用可能領域があり、UEFI ブートローダー (これは、セキュリティ上の理由で複数のイメージをサポートしません) で機能するコンテンツをロードしていない場合、USB キーユーティリティは、シングル USB フラッシュ ドライブ上で複数のイメージをサポートします。

**注記:** SUM 6.20、SPP 2014.02.0、および、Intelligent Provisioning 1.60 以降は、シングル デバイスでのマルチブート環境をサポートしなくなりました。SUM、SPP、および、Intelligent Provisioning には、UEFI ブートローダーで動作するために署名された部分が含まれています。この変更により、USB キーなどのシングル デバイス上でのマルチブート セットアップができなくなりました。

---

### 手順

1. ブート可能な USB キーの作成の場合の手順に従います。
2. **USB キー ユーティリティ ショートカット**を USB キー ユーティリティ フォルダーでダブルクリックします。
3. アプリケーションの指示に従い、以下の各手順を実行します。
  - a. スプラッシュ画面で、**次へ**をクリックします。
  - b. エンドユーザー使用許諾契約書を読んだら、**同意する**を選択し、**次へ**をクリックします。
  - c. **CD/DVD をブート可能 USB キーに追加**を選択し、**次へ**をクリックします。
  - d. USB フラッシュ ドライブを利用可能な USB ポートに配置します。メディアをオプティカルドライブに挿入するか、ISO イメージをマウントして、**次へ**をクリックします。

- e. ソースのドライブ文字およびターゲット USB フラッシュ ドライブのドライブ文字を選択し、**次へ**をクリックします。
- f. 情報画面で **次へ**をクリックします。  
ソース コンテンツが USB フラッシュ ドライブにコピーされます。
- g. README.TXT ファイルを表示するには、**完了**をクリックします。

---

**注記:** ISO に表示する README.TXT ファイルが 1 つ含まれている場合にのみ、ファイルが表示されます。

---

- 4. 各ソースメディアまたはイメージで、手順 2 ~ 3 を繰り返して、USB キーに転送します。

# トラブルシューティング

## トラブルシューティングの基本的な手法

Intelligent Provisioning には、問題の解決に使用できるトラブルシューティングの基本ツールが用意されています。

## 一般的な問題のトラブルシューティング

### Intelligent Provisioning F10 ブート中に iLO ログオンが必要

#### 症状

F10 ブート中に iLO ユーザー名およびパスワードを指定せず Intelligent Provisioning にログオンできません。

#### 原因

RBSU BIOS 管理者パスワードが設定されています。

#### アクション

1. 強制的にシャットダウンし、RBSU を起動します。
2. 管理者パスワードを削除します。
3. **保存**をクリックして終了します。
4. システムユーティリティ > **内蔵アプリケーション** > **Intelligent Provisioning** の順に選択します。
5. Intelligent Provisioning を起動します。

### F10 キーを押しても Intelligent Provisioning が起動しない

#### 症状

Intelligent Provisioning により、システムの電源投入時 Self-Test (POST) 中にサービス員およびお客様が F10 キーを押すと、最新の Intelligent Provisioning を自動的にロードできます。Intelligent Provisioning が期待どおりに起動しない場合は、Intelligent Provisioning の再インストールが必要となる場合があります。

#### 原因

現在の Intelligent Provisioning ファイルに問題があります。

#### アクション

1. Intelligent Provisioning ISO イメージおよび USB キー ユーティリティを hpe.com からダウンロードします。詳細情報については、[USB キー ユーティリティを使用する](#)を参照してください。
2. ブート可能 USB キーを作成して、ISO イメージをコピーします。
3. USB キーを挿入し、ユニットの電源を入れます。
4. USB キーから起動するには、F11 キーを押して、**オプション 3: One Time Boot to USB Drive Key** を選択します。



システムは USB キーから起動され、IP リカバリをインストールします。インストールが完了したら、ユーティリティは USB キーを取り出すように求めるプロンプトを表示します。

5. USB キーを取り外します。
6. システムを再起動して、**F10** キー (IP リカバリ) を押し、IP リカバリが正しく起動されることを確認します。

## OS ホスト名フィールドがない

### 症状

Intelligent Provisioning Assisted Install > OS の選択ページに OS ホスト名フィールドがありません。

### アクション

OS ホスト名は、同じ機能を実行するコンピューター名で置き換えられました。

## 展開設定でのバージョン情報へのアクセス

### 症状

展開設定ユーティリティのバージョン情報は空白です。

### 原因

バージョン情報は展開設定ユーティリティに表示されなくなりました。

### アクション

バージョン情報については、画面の上部にあるシステム情報アイコンをクリックしてください。

## ブラウザーが展開プロファイルをインポートしない

### 症状

Intelligent Provisioning が展開プロファイルをインポートしない。

### アクション

プロファイルが .txt ファイル形式で保存されていることを確認してください。

## 一部のレガシー BIOS モードで特定の手順が必要になる

サーバー ブートモードがレガシー BIOS モードに設定されている場合、一部のオペレーティングシステムで特定のインストールが必要になります。

---

**注記:** **F10** キーを押すことにより、レガシー BIOS モードの動作を変更できません。レガシー BIOS モードで手動インストールを実行する場合は、以下を確認してください。

---

- ・ Windows システムでは、システムは DVD から起動します。
- ・ Linux および VMware システムでは、システムはハードドライブから起動します。

---

**注記:** ブート順序を変更するか、ブートプロセス中に **F11** キーを押してください。

---

## Intelligent Provisioning 環境設定に NIC ポートが保存されない

### 症状

送信をクリックした後に、NIC ポートが Intelligent Provisioning 環境設定に保存されません。

### 原因

NIC ポートを保存するには、サーバーの再起動が必要です。

### アクション

1. アップデートとインストール用のネットワークインターフェイスを選択してくださいで NIC ポートを選択します。
2. 送信をクリックします。
3. サーバーを再起動して、NIC ポートを保存します。

## Always On Intelligent Provisioning で NIC のステータスが表示されない

### 症状

Always On Intelligent Provisioning で NIC を表示した際、NIC にステータスが表示されない。

### アクション

1. iLO ページまたは RBSU で、NIC オプションのステータスを確認します。
2. AOIP でポートを選択し、インストールを続行してください。

## カスタムのパーティションサイズを作成できない

### 症状

OS のインストール時に、カスタムのパーティションサイズを作成できない。

### アクション

アクションは不要です。Intelligent Provisioning は、オペレーティングシステムをインストールする際の、カスタムのパーティションサイズの作成に対応していません。

## Windows 固有の問題のトラブルシューティング

### System Management ホームページに情報が表示されない

#### 症状

Windows の自動インストールの実行後、System Management ホームページに情報が表示されません。

## 原因

System Management ホームページに情報が表示されないことは予想される動作です。デフォルトでは AMS のみがインストールされるためです。

## アクション

1. WBEM または SNMP エージェントをインストールします。
2. System Management ホームページに情報が表示されることを確認します。

## Windows Essentials が USB ソースからインストールされない

### 症状

Windows Essentials が USB ソースからインストールされない。

### 原因

Windows Essentials は、USB からのインストールに対応していません。

### アクション

Windows Essentials を ISO ソースからインストールしてください。

## Windows が AMD サーバーにインストールされない

### 症状

Intelligent Provisioning が、期待どおりに、Windows を AMD サーバーにインストールしません。

### 原因

BIOS 設定 IOMMU をアクティブ化します。

### アクション

1. Intelligent Provisioning のメイン画面から、メンテナンスを実行 > BIOS/プラットフォーム構成 > 仮想化オプション > AMD (R) IOMMU を選択します。
2. 無効化を選択します。
3. 設定を保存し、オペレーティングシステムを再インストールします。

## Linux 固有の問題のトラブルシューティング

### Red Hat Enterprise Linux 7 の自動インストールを続行できない

#### 症状

Red Hat Enterprise Linux 7 をインストールするときに、FTP ソースメディア経由で、有効な OS イメージを使って自動インストールを進めることができません。

#### 原因

必要な Red Hat OS ファイルがないか、または間違った場所にあります。

## アクション

1. 必要なすべての Red Hat OS ファイルが、匿名アクセスが可能な FTP のパブリックディレクトリにあることを確認してください。
2. 2 つの TRANS.TBL ファイルが Red Hat OS フラットファイルフォルダーにあることを確認します。1 つのファイルはメイン OS ファイルフォルダーに存在し、もう 1 つのファイルはメイン OS ファイルフォルダー内の Server フォルダーに存在する必要があります。
3. インストールを再試行します。

## Red Hat OS の自動インストールがハングする

### 症状

FTP ソースメディアによる Red Hat OS インストールでの自動インストール方式を使用すると、次の問題のいずれかが発生します。

- ・ 再起動中にインストールが異常停止し、The Red Hat Enterprise Linux Server CD was not found というエラーが表示される。
- ・ インストールが異常停止し、Could not allocate requested partitions というエラーが表示される。
- ・ インストールが正常に完了しない。
- ・ OS インストール用のフラットファイルが欠如している場合でも、インストールが正常に完了する。

### 原因

FTP ソースメディアによる Red Hat OS インストールでの自動インストール方式の使用は、確実には機能しない可能性があります。

### アクション

1. DUD を HPE サポートセンターから取得します。
2. Intelligent Provisioning の外部で OS をインストールします。

## VMware 固有の問題のトラブルシューティング

### VMware の自動インストール中にサーバーが再起動する

#### 症状

DVD をソースメディアとして使用して VMware の自動インストールを実行した場合、プレインストールの完了後にサーバーが再起動し、サーバーは OS を開かずに ESXi インストーラーのロードを再度開始します。

#### 原因

USB が SUT に接続されている場合、HDD にインストールされている VMware OS が連続して再起動します。

## アクション

1. USB デバイスを取り外します。
2. インストールを続行します。

# Web サイト

全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library

<http://www.hpe.com/info/EIL>

Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリックス

<http://www.hpe.com/storage/spock>

ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート

<http://www.hpe.com/storage/whitepapers>

その他の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

# サポートと他のリソース

## Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ・ ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/assistance>

- ・ ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

### ご用意いただく情報

- ・ テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- ・ 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- ・ オペレーティングシステム名およびバージョン
- ・ ファームウェアバージョン
- ・ エラーメッセージ
- ・ 製品固有のレポートおよびログ
- ・ アドオン製品またはコンポーネント
- ・ 他社製品またはコンポーネント

## アップデートへのアクセス

- ・ 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- ・ 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

**Hewlett Packard Enterprise サポートセンター**

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

**Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード**

<http://www.hpe.com/support/downloads>

**Software Depot**

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- ・ eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- ・ お客様の資格を表示したりアップデートしたり、契約や保証をお客様のプロファイルにリンクしたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

- ❗ **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。

## カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

## リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPE プロアクティブケアサービス : サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス : サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts>

## 保証情報

ご使用の製品の保証またはサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報に関するドキュメントを確認するには、下記の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

追加保証情報

HPE ProLiant と x86 サーバーおよびオプション

<http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE エンタープライズサーバー

<http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>



HPE ストレージ製品

<http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

## 規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

### 規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/environment>

## ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 ([docsfeedback@hpe.com](mailto:docsfeedback@hpe.com)) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。